

進 学 指 導 重 点 校  
進 学 指 導 特 別 推 進 校  
取 組 状 況 報 告

- 都立学校の進学指導の充実に向けて -

平成 2 0 年 7 月  
都立学校経営支援委員会

## はじめに

東京都教育委員会は、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望などが多様化している実態を踏まえ、一人一人の生徒を大切にするとともに、豊かな個性や創造性を育成し、生徒の進路希望や学習希望等に応じた教育を行うため、都立学校の機能分化を進め、特色ある学校づくりを推進してきました。

平成13年9月に、日比谷高校、戸山高校、西高校、八王子東高校の4校を進学指導重点校に指定し、更に、青山高校、立川高校、国立高校の3校を平成14年9月に進学指導重点準備校、平成15年11月に進学指導重点校に指定しました。進学指導重点校に指定した7校では、これまで、生徒の進学希望を踏まえた指導内容及び指導方法の工夫改善を図り、生徒の進路希望を実現できるよう組織的で計画的な進学指導を推進するとともに、実践的な研究開発を行い、着実に実績を上げてきました。これらの成果を基に、更なる進学指導の充実を目指すため、平成19年4月に指定期間を6年間延長しました。

また、進学指導重点校に次ぐ学校として、小山台高校、駒場高校、新宿高校、町田高校、国分寺高校を平成19年6月に、新たに進学指導特別推進校として指定しました。

本報告書は、進学指導重点校7校及び進学指導特別推進校5校の、これまでの取組及び実績をまとめたものです。

各学校では、育てたい生徒像を明確にして学校の特色化を更に進めるとともに、中長期にわたる数値目標及び取組目標を設定することで、組織的・計画的な進路指導を行い、生徒の進路希望や学力の実態把握を行うとともに、希望の実現に向けた指導体制を充実させてきました。

このような進学指導重点校及び進学指導特別推進校における指導方法の改善などの成果を他の都立学校にも広く提供することにより、今後も都立学校における進学対策全般のレベルアップを図ってまいります。

# 目 次

## はじめに

### 第 1 章 進学指導重点校・進学指導特別推進校の取組の成果

#### 1 進学指導重点校・進学指導特別推進校指定の経緯と意義

( 1 ) 進学指導重点校・進学指導特別推進校指定の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

( 2 ) 進学指導重点校・進学指導特別推進校指定の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

#### 2 進学指導重点校・進学指導特別推進校の大学合格の状況

( 1 ) 東京大学、東京工業大学、一橋大学、京都大学、  
国公立大学医学部医学科の現役合格者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

( 2 ) 東京大学の現役合格者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

( 3 ) 国公立大学全体の現役合格者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

( 4 ) 早稲田大学、慶応義塾大学、上智大学の現役合格者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

進学指導重点校（日比谷・戸山・西・八王子東）の合格状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

進学指導重点校（青山・立川・国立）の合格状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

進学指導特別推進校（小山台・駒場・新宿・町田・国分寺）の合格状況・・・・ 7

### 第 2 章 進学指導重点校・進学指導特別推進校の取組状況

#### 1 学校の概要

( 1 ) 目指す学校・・ 9

( 2 ) 平成 1 9 年度の数値目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 2

#### 2 取組状況

( 1 ) 進学実績の向上に向けた取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 4

( 2 ) 豊かな人間性や社会性をはぐくむ取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 3

### 第 3 章 今後の取組

1 中長期の目標・取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 0

#### 2 取組むべき課題と支援策の充実

( 1 ) 組織的な進学指導体制の更なる充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 8

( 2 ) 生徒に展望を持たせる指導の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 8

( 3 ) 1 2 校の成果を他の都立学校へ波及させる取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 8

### 第 4 章 都立学校の進学実績の向上に向けた取組

#### 1 進学指導研究協議会の取組

( 1 ) 進学指導研究協議会の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 0

( 2 ) 平成 1 9 年度における取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 0

2 進学対策のための教科研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 1

3 その他の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 1

## おわりに

## 第1章 進学指導重点校・進学指導特別推進校の取組の成果

### 1 進学指導重点校・進学指導特別推進校指定の経緯と意義

#### (1) 進学指導重点校・進学指導特別推進校指定の経緯

##### 進学指導重点校

東京都教育委員会は、進学指導重点校の指定をはじめ、都立高校改革を通じて、都立高校の個性化・特色化を図るとともに、新しいタイプの高校を設置するなど、生徒の多様な進路希望にこたえる学校づくりを推進してきた。

生徒の進路希望にこたえるための進学指導は、生徒の自己実現を図る上で、高等学校教育において重要な役割を担っている。平成13年に東京都教育委員会が実施した「都立高校に関する都民意識調査」においても、都立高校における進学指導の在り方についての質問に対して、回答者の52.1%が「すべての都立高校で進学を充実」させるべきであると回答している。しかし、平成13年3月に実施した民間教育研究機関の調査結果によると、都立学校では授業の目標設定があいまいであったり、進学指導体制が確立されていなかったりすることから、学力上位層が薄く、難関国立大学に進学できる生徒が少ない実態などが報告された。

このような現状をかんがみ、長期低落傾向に歯止めのかからなかった都立学校の進学実績の向上に向けて、平成13年9月には、日比谷高校、戸山高校、西高校、八王子東高校の4校を進学指導重点校に指定するとともに、青山高校、立川高校、国立高校の3校を平成14年9月に進学指導重点準備校、平成15年1月には進学指導重点校に指定した。指定に当たっては、過去の進学実績、学力検査問題の自校作成、進学指導対策の状況等を総合的に勘案して行っている。

平成15年1月にまとめた中間報告書としての「進学指導重点校・進学指導重点準備校の取組」では、教育課程の工夫や補習・講習の実施など各学校の取組が報告された。

平成16年10月の「都立高校における進学対策に関する調査(第2回)」では、改革が一定以上の成果を収めつつあることが報告された。

平成17年4月の「進学指導重点校の取組状況報告」以降は、平成13年9月に指定した日比谷高校、戸山高校、西高校、八王子東高校及び平成15年1月に指定した青山高校、立川高校、国立高校の進学指導重点校全7校の実績をまとめている。

##### 進学指導特別推進校

上記のとおり進学指導重点校において、生徒の進学希望を実現させる進学指導について着実に実績を上げてきたところであるが、東京都教育委員会では、学力向上に向けた取組を拡大し、更なる進学実績の顕著な向上を目指すため、平成19年6月に小山台高校、駒場高校、新宿高校、町田高校、国分寺高校の5校を進学指導特別推進校として、進学指導重点校に次ぐ学校として指定した。指定に当たっては、過去の進学実績、講習及び補講の実施状況、進学指導に対する学校の取組状況等を総合的に勘案して行っている。

- これまでの「進学指導重点校・進学指導進学指導特別推進校」に関する経緯 -

平成13年	3月	都立高校に関する都民意識調査
		都立高校における進学対策に関する調査
平成13年	9月	第三回都議会定例会での答弁
"		日比谷高校、戸山高校、西高校、八王子東高校を「進学指導重点校」に指定
平成14年	9月	青山高校、立川高校、国立高校を「進学指導重点準備校」に指定
平成15年	11月	青山高校、立川高校、国立高校を「進学指導重点校」に指定
"		「進学指導重点校・進学指導重点準備校の取組状況」の作成
平成16年	10月	都立高校における進学対策に関する調査(第2回)
平成16年	12月	進学指導重点校保護者懇談会の開催
平成17年	4月	「進学指導重点校の取組状況報告 - 全都立学校の進学指導の充実に向けて -」作成
平成18年	4月	「進学指導重点校の取組状況報告 - 全都立学校の進学指導の向上に向けて -」作成
平成19年	4月	「進学指導重点校の取組状況報告 - 全都立学校の進学指導の改善に向けて -」作成
		進学指導重点校7校を指定期間の6年間延長
平成19年	6月	小山台高校、駒場高校、新宿高校、町田高校、国分寺高校を「進学指導特別推進校」に指定

## (2) 進学指導重点校・進学指導特別推進校指定の意義

### 進学指導重点校

進学指導重点校指定のねらいは、昭和40年代以降低落傾向に歯止めがかからなかった都立高校に対して、都教育委員会が、進学指導の実績を上げるための具体的方策を講じるとともに、指定された学校が、様々な課題を克服する中で、生徒が知・徳・体のバランスのとれた人格の形成と自己実現が図れるよう、進学実績の向上を図ることである。

本報告書では、進学指導重点校の指定後、進学指導の意義や在り方を再検討し、様々な課題を克服する中で成果を上げてきた各学校の特徴的な取組を紹介している。このような事例を研修等に反映させ、全都立学校で共有化することにより、都立学校全体の進路指導のレベルアップを図り、日本の将来を担う人材を数多く育成していくことが進学指導重点校指定の真のねらいである。

### 進学指導特別推進校

「新しいタイプの高校における成果検証検討委員会」の報告において、都民意識調査等により、難関大学等への進学を目指す、レベルアップ校の指定を要請していることを受け、進学指導重点校に次ぐ学校の充実を図り、学力向上に向けた取組の拡大及び更なる進学実績の顕著な向上を目指して指定したものである。進学指導を重視した教育課程の編成、公募制による指導力のある教員の配置、進学対策のための教科研修等、様々な支援を行うとともに、進学指導特別推進校における指導方法の改善などの成果を他の都立学校にも提供することで、都立学校における進学対策全般のレベルアップを図っていくことがねらいである。

## 2 進学指導重点校・進学指導特別推進校の大学合格の状況

進学指導重点校である日比谷高校、戸山高校、西高校、八王子東高校の国公立大学及び私立大学の合格状況を5ページ、青山高校、立川高校、国立高校の国公立大学及び私立大学の合格状況を6ページに掲載した。

また、進学指導特別推進校である小山台高校、駒場高校、新宿高校、町田高校、国分寺高校についても、国公立大学及び私立大学の合格状況を7ページ及び8ページに掲載した。

進学指導重点校は、各校とも平成19年度から新たに指定期間を延長した。本報告書では、指定期間延長前の平成12年度から指定期間以前(日比谷高校、戸山高校、西高校、八王子東高校については平成12年度から平成16年度まで、青山高校、立川高校、国立高校については平成12年度から平成17年度まで)までの平均と、延長前の指定期間(日比谷高校、戸山高校、西高校、八王子東高校については平成17年度から平成19年度まで、青山高校、立川高校、国立高校については平成18年度及び平成19年度)及び延長後の平成20年度の平均とを比較した。また、進学指導特別推進校については指定初年度のため、平成17年度から指定前の平成19年度までの平均と平成20年度の実績とを比較した。

なお、合格者数を掲載したのは、国公立大学、私立大学ともに、難関大学といわれている学校である。国公立大学については、特に、大学入試センター試験で、各教科・科目で最低8割以上の得点がないと合格が難しいであろう東京大学、東京工業大学、一橋大学、京都大学、国公立大学医学部医学科を集計の対象とした。また、私立大学については、早稲田大学、慶応義塾大学、上智大学を集計の対象とした。

全体の傾向として、進学指導重点校については、各学校において進学指導を充実・発展させてきたが、難関国公立及び国公立医学部の実績が前回指定期間の平均を下回った。しかし、一方で、私立大学合格者は増加しており、生徒の進路希望の傾向が変化していることが伺える。更なる授業の質的向上・量的拡大を図ることにより、生徒一人一人の進路希望に沿った進学指導を行うことで、国公立・私立を問わず、難関大学の合格実績を向上させることができると考えられる。

また、進学指導特別推進校については、指定後に入学した生徒が卒業年度に達していないため、平成20年度の実績を進学指導特別推進校指定の成果として見ることは難しいが、指定後1年弱の間で行った進学指導の成果は、今後の更なる実績の向上を期待できるものである。

(1) 東京大学、東京工業大学、一橋大学、京都大学、国公立大学医学部医学科の現役合格者数

ア 進学指導重点校（日比谷高校、戸山高校、西高校、八王子東高校）

	平成 20 年度 〔指定期間延長後〕	平成 17～19 年度平均 〔前回指定期間〕	平成 12～16 年度平均 〔前回指定期間以前〕
実績	71 名	88.7 名	60.6 名
増加率	-20.0 %	46.4 %	

イ 進学指導重点校（青山高校、立川高校、国立高校）

	平成 20 年度 〔指定期間延長後〕	平成 18～19 年度平均 〔前回指定期間〕	平成 12～17 年度平均 〔前回指定期間以前〕
実績	44 名	35.0 名	30.5 名
増加率	25.7 %	14.8 %	

ウ 進学指導特別推進校（小山台高校、駒場高校、新宿高校、町田高校、国分寺高校）

	平成 20 年度〔指定後〕	平成 17～19 年度平均〔指定前〕
実績	10 名	10.0 名
増加率	0.0 %	

(2) 東京大学の現役合格者数

ア 進学指導重点校（日比谷高校、戸山高校、西高校、八王子東高校）

	平成 20 年度 〔指定期間延長後〕	平成 17～19 年度平均 〔前回指定期間〕	平成 12～16 年度平均 〔前回指定期間以前〕
実績	17 名	29.7 名	18.8 名
増加率	-42.8 %	58.0 %	

イ 進学指導重点校（青山高校、立川高校、国立高校）

	平成 20 年度 〔指定期間延長後〕	平成 18～19 年度平均 〔前回指定期間〕	平成 12～17 年度平均 〔前回指定期間以前〕
実績	5 名	7.0 名	5.5 名
増加率	-28.6 %	27.3 %	

ウ 進学指導特別推進校（小山台高校、駒場高校、新宿高校、町田高校、国分寺高校）

	平成 20 年度〔指定後〕	平成 17～19 年度平均〔指定前〕
実績	2 名	1.0 名
増加率	100.0 %	

(3) 国公立大学全体の現役合格者数

ア 進学指導重点校（日比谷高校、戸山高校、西高校、八王子東高校）

	平成 20 年度 〔指定期間延長後〕	平成 17～19 年度平均 〔前回指定期間〕	平成 12～16 年度平均 〔前回指定期間以前〕
実績	309 名	334.0 名	229.8 名
増加率	-7.5 %	45.3 %	

イ 進学指導重点校（青山高校、立川高校、国立高校）

	平成 20 年度 〔指定期間延長後〕	平成 18～19 年度平均 〔前回指定期間〕	平成 12～17 年度平均 〔前回指定期間以前〕
実績	238 名	231.5 名	148.5 名
増加率	2.8 %	55.9 %	

ウ 進学指導特別推進校（小山台高校、駒場高校、新宿高校、町田高校、国分寺高校）

	平成 20 年度〔指定後〕	平成 17～19 年度平均〔指定前〕
実績	173 名	169.5 名
増加率	2.0 %	

(4) 早稲田大学、慶応義塾大学、上智大学の現役合格者数

ア 進学指導重点校(日比谷高校、戸山高校、西高校、八王子東高校)

	平成 20 年度 〔指定期間延長後〕	平成 17～19 年度平均 〔前回指定期間〕	平成 12～16 年度平均 〔前回指定期間以前〕
実績	504 名	449.0 名	289.2 名
増加率	12.2 %	55.3 %	

イ 進学指導重点校(青山高校、立川高校、国立高校)

	平成 20 年度 〔指定期間延長後〕	平成 18～19 年度平均 〔前回指定期間〕	平成 12～17 年度平均 〔前回指定期間以前〕
実績	241 名	263.5 名	172.5 名
増加率	-8.5 %	52.8 %	

ウ 進学指導特別推進校(小山台高校、駒場高校、新宿高校、町田高校、国分寺高校)

	平成 20 年度 〔指定後〕	平成 17～19 年度平均 〔指定前〕
実績	170 名	154.5 名
増加率	10.0 %	

# 進学指導重点校(日比谷・戸山・西・八王子東)の合格状況

## 【国公立大学】

平成20年4月30日現在

大学	高等学校	平成12～16年度平均			平成17年度			平成18年度			平成19年度			平成17～19年度平均			平成20年度		
		現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計
国公立大学合計	日比谷	43.8	41.4	85.2	77	42	119	90	36	126	94	51	145	87.0	43.0	130.0	72	54	126
	戸山	37.4	52.8	90.2	51	38	89	72	60	132	48	32	80	57.0	43.3	100.3	81	43	124
	西	78.4	57.0	135.4	100	60	160	81	46	127	80	50	130	87.0	52.0	139.0	76	86	162
	八王子東	70.2	64.2	134.4	108	64	172	103	47	150	98	66	164	103.0	59.0	162.0	80	44	124
	4校計	229.8	215.4	445.2	336	204	540	346	189	535	320	199	519	334.0	197.3	531.3	309	227	536
東京大学	日比谷	2.0	2.2	4.2	8	6	14	9	3	12	19	9	28	12.0	6.0	18.0	4	9	13
	戸山	3.4	3.6	7.0	2	5	7	3	3	6	1	2	3	2.0	3.3	5.3	1	3	4
	西	7.8	7.6	15.4	9	9	18	9	10	19	7	9	16	8.3	9.3	17.7	10	18	28
	八王子東	5.6	5.6	11.2	6	3	9	8	2	10	8	8	16	7.3	4.3	11.7	2	5	7
	4校計	18.8	19.0	37.8	25	23	48	29	18	47	35	28	63	29.7	23.0	52.7	17	35	52
東京工業大学	日比谷	2.4	2.6	5.0	5	2	7	10	3	13	10	1	11	8.3	2.0	10.3	10	2	12
	戸山	2.0	2.8	4.8	1	2	3	5	5	10	2	3	5	2.7	3.3	6.0	3	3	6
	西	8.0	4.8	12.8	15	4	19	10	6	16	9	2	11	11.3	4.0	15.3	9	9	18
	八王子東	7.2	5.8	13.0	10	5	15	13	9	22	4	8	12	9.0	7.3	16.3	4	6	10
	4校計	19.6	16.0	35.6	31	13	44	38	23	61	25	14	39	31.3	16.7	48.0	26	20	46
一橋大学	日比谷	0.4	1.4	1.8	7	1	8	5	2	7	4	3	7	5.3	2.0	7.3	3	5	8
	戸山	2.2	3.4	5.6	1	2	3	0	1	1	2	3	5	1.0	2.0	3.0	2	1	3
	西	5.8	2.6	8.4	5	3	8	3	5	8	6	6	12	4.7	4.7	9.3	9	10	19
	八王子東	4.4	3.4	7.8	6	2	8	5	1	6	2	3	5	4.3	2.0	6.3	3	2	5
	4校計	12.8	10.8	23.6	19	8	27	13	9	22	14	15	29	15.3	10.7	26.0	17	18	35
京都大学	日比谷	0.8	0.4	1.2	0	1	1	1	1	2	0	0	0	0.3	0.7	1.0	2	2	4
	戸山	0.4	2.2	2.6	0	2	2	1	0	1	0	0	0	0.3	0.7	1.0	0	1	1
	西	1.8	2.4	4.2	1	5	6	3	2	5	2	3	5	2.0	3.3	5.3	1	4	5
	八王子東	0.4	2.4	2.8	1	1	2	3	1	4	0	1	1	1.3	1.0	2.3	1	0	1
	4校計	3.4	7.4	10.8	2	9	11	8	4	12	2	4	6	4.0	5.7	9.7	4	7	11
医学部医学科	日比谷	0.0	2.0	2.0	3	3	6	3	4	7	2	5	7	2.7	4.0	6.7	2	12	14
	戸山	1.0	6.0	7.0	1	5	6	2	6	8	0	5	5	1.0	5.3	6.3	1	5	6
	西	3.0	8.0	11.0	4	6	10	3	5	8	4	9	13	3.7	6.7	10.3	3	6	9
	八王子東	2.0	10.0	12.0	1	7	8	1	10	11	1	7	8	1.0	8.0	9.0	1	8	9
	4校計	6.0	26.0	32.0	9	21	30	9	25	34	7	26	33	8.3	24.0	32.3	7	31	38
4大学+医学部医学科	日比谷	5.6	8.6	14.2	23	13	36	28	13	41	35	18	53	28.7	14.7	43.3	21	30	51
	戸山	9.0	18.0	27.0	5	16	21	11	15	26	5	13	18	7.0	14.7	21.7	7	13	20
	西	26.4	25.4	51.8	34	27	61	28	28	56	28	29	57	30.0	28.0	58.0	32	47	79
	八王子東	19.6	27.2	46.8	24	18	42	30	23	53	15	27	42	23.0	22.7	45.7	11	21	32
	4校計	60.6	79.2	139.8	86	74	160	97	79	176	83	87	170	88.7	80.0	168.7	71	111	182

注 4大学=東京大学、東京工業大学、一橋大学、京都大学  
 平成16年度及び17年度の医学部医学科には八王子東高校の東京大学(浪人、各年度に1人)が含まれるため、「4大学+医学部医学科」欄では合計から1を減じている。  
 平成20年度とは、平成20年3月卒業生徒の合格者数を指す。それ以外についても同様  
 平均値の端数処理は、現役・浪人・計のそれぞれで四捨五入しているため、現役+浪人=計とならない場合がある。

## 【私立大学】

大学	高等学校	平成12～16年度平均			平成17年度			平成18年度			平成19年度			平成17～19年度平均			平成20年度		
		現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計
私立大学合計	日比谷	328.2	318.2	646.4	491	277	768	516	252	768	592	224	816	533.0	251.0	784.0	487	232	719
	戸山	222.4	368.4	590.8	315	400	715	407	376	783	364	286	650	362.0	354.0	716.0	483	382	865
	西	322.6	339.4	662.0	365	362	727	381	354	735	394	386	780	380.0	367.3	747.3	462	409	871
	八王子東	313.8	341.8	655.6	300	344	644	354	384	738	446	385	831	366.7	371.0	737.7	279	296	575
	4校計	1187.0	1367.8	2554.8	1471	1383	2854	1658	1366	3024	1796	1281	3077	1641.7	1343.3	2985.0	1711	1319	3030
早稲田大学	日比谷	33.6	40.8	74.4	70	41	111	82	43	125	97	46	143	83.0	43.3	126.3	58	44	102
	戸山	30.0	53.8	83.8	47	50	97	65	42	107	45	37	82	52.3	43.0	95.3	68	41	109
	西	63.4	58.4	121.8	67	55	122	73	57	130	67	67	134	69.0	59.7	128.7	109	71	180
	八王子東	38.6	47.2	85.8	32	40	72	45	44	89	52	44	96	43.0	42.7	85.7	33	44	77
	4校計	165.6	200.2	365.8	216	186	402	265	186	451	261	194	455	247.3	188.7	436.0	268	200	468
慶應義塾大学	日比谷	16.4	16.4	32.8	51	25	76	65	24	89	67	20	87	61.0	23.0	84.0	64	33	97
	戸山	14.2	22.6	36.8	18	21	39	18	16	34	23	12	35	19.7	16.3	36.0	32	21	53
	西	28.6	28.6	57.2	30	25	55	38	36	74	27	33	60	31.7	31.3	63.0	48	36	84
	八王子東	22.0	18.6	40.6	19	15	34	24	20	44	20	19	39	21.0	18.0	39.0	13	17	30
	4校計	81.2	86.2	167.4	118	86	204	145	96	241	137	84	221	133.3	88.7	222.0	157	107	264
上智大学	日比谷	11.8	8.0	19.8	28	11	39	30	10	40	29	5	34	29.0	8.7	37.7	31	17	48
	戸山	7.4	8.2	15.6	10	11	21	15	14	29	12	8	20	12.3	11.0	23.3	19	5	24
	西	14.2	16.8	31.0	17	21	38	20	14	34	20	5	25	19.0	13.3	32.3	26	15	41
	八王子東	9.0	9.6	18.6	10	13	23	4	12	16	10	11	21	8.0	12.0	20.0	3	8	11
	4校計	42.4	42.6	85.0	65	56	121	69	50	119	71	29	100	68.3	45.0	113.3	79	45	124
3大学計	日比谷	61.8	65.2	127.0	149	77	226	177	77	254	193	71	264	173.0	75.0	248.0	153	94	247
	戸山	51.6	84.6	136.2	75	82	157	98	72	170	80	57	137	84.3	70.3	154.7	119	67	186
	西	106.2	103.8	210.0	114	101	215	131	107	238	114	105	219	119.7	104.3	224.0	183	122	305
	八王子東	69.6	75.4	145.0	61	68	129	73	76	149	82	74	156	72.0	72.7	144.7	49	69	118
	4校計	289.2	329.0	618.2	399	328	727	479	332	811	469	307	776	449.0	322.3	771.3	504	352	856

注 3大学=早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学  
 平成20年度とは、平成20年3月卒業生徒の合格者数を指す。それ以外についても同様  
 平均値の端数処理は、現役・浪人・計のそれぞれで四捨五入しているため、現役+浪人=計とならない場合がある。

# 進学指導重点校(青山・立川・国立)の合格状況

## 【国公立大学】

平成20年4月30日現在

大学	高等学校	平成12～17年度平均			平成18年度			平成19年度			平成18～19年度平均			平成20年度		
		現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計
国公立大学合計	青山	31.3	36.0	67.3	44	29	73	52	20	72	48.0	24.5	72.5	45	18	63
	立川	46.3	40.3	86.7	71	42	113	84	40	124	77.5	41.0	118.5	75	31	106
	国立	70.8	63.0	133.8	102	57	159	110	61	171	106.0	59.0	165.0	118	65	183
	3校計	148.5	139.3	287.8	217	128	345	246	121	367	231.5	124.5	356.0	238	114	352
東京大学	青山	0.3	0.7	1.0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	1	0	1
	立川	0.5	0.5	1.0	0	0	0	1	1	2	0.5	0.5	1.0	1	0	1
	国立	4.7	4.2	8.8	5	4	9	8	8	16	6.5	6.0	12.5	3	2	5
	3校計	5.5	5.3	10.8	5	4	9	9	9	18	7.0	6.5	13.5	5	2	7
東京工業大学	青山	1.2	2.7	3.8	2	2	4	1	2	3	1.5	2.0	3.5	6	1	7
	立川	1.3	2.0	3.3	3	2	5	2	2	4	2.5	2.0	4.5	8	1	9
	国立	4.3	5.8	10.2	8	5	13	5	6	11	6.5	5.5	12.0	8	4	12
	3校計	6.8	10.5	17.3	13	9	22	8	10	18	10.5	9.5	20.0	22	6	28
一橋大学	青山	2.0	1.2	3.2	2	2	4	2	1	3	2.0	1.5	3.5	0	0	0
	立川	1.8	1.7	3.5	2	0	2	3	1	4	2.5	0.5	3.0	3	1	4
	国立	6.2	5.3	11.5	7	4	11	8	11	19	7.5	7.5	15.0	7	3	10
	3校計	10.0	8.2	18.2	11	6	17	13	13	26	12.0	9.5	21.5	10	4	14
京都大学	青山	0.0	0.7	0.7	0	0	0	0	1	1	0.0	0.5	0.5	0	1	1
	立川	0.3	0.3	0.7	0	2	2	0	1	1	0.0	1.5	1.5	0	2	2
	国立	1.8	3.0	4.8	1	4	5	3	2	5	2.0	3.0	5.0	4	4	8
	3校計	2.2	4.0	6.2	1	6	7	3	4	7	2.0	5.0	7.0	4	7	11
医学部医学科	青山	0.5	0.5	1.0	0	2	2	0	3	3	0.0	2.5	2.5	0	4	4
	立川	0.0	1.5	1.5	1	2	3	1	0	1	1.0	1.0	2.0	0	0	0
	国立	1.5	4.5	6.0	4	3	7	1	4	5	2.5	3.5	6.0	3	7	10
	3校計	2.0	6.5	8.5	5	7	12	2	7	9	3.5	7.0	10.5	3	11	14
医学部医学科 4大学	青山	3.5	3.5	7.0	4	6	10	3	7	10	3.5	6.5	10.0	7	6	13
	立川	4.5	9.5	14.0	6	6	12	7	5	12	6.5	5.5	12.0	12	4	16
	国立	22.5	21.0	43.5	25	20	45	25	31	56	25.0	25.5	50.5	25	20	45
	3校計	30.5	34.0	64.5	35	32	67	35	43	78	35.0	37.5	72.5	44	30	74

注 4大学＝東京大学、東京工業大学、一橋大学、京都大学  
平成20年度とは、平成20年3月卒業生徒の合格者数を指す。それ以外についても同様  
平均値の端数処理は、現役・浪人・計のそれぞれで四捨五入しているため、現役+浪人＝計とならない場合がある。

## 【私立大学】

大学	高等学校	平成12～17年度平均			平成18年度			平成19年度			平成18～19年度平均			平成20年度		
		現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計
私立大学合計	青山	270.0	305.5	575.5	424	261	685	535	256	791	479.5	258.5	738.0	470	160	630
	立川	319.2	280.7	599.8	441	333	774	527	342	869	484.0	337.5	821.5	638	301	939
	国立	345.2	364.7	709.8	442	445	887	454	364	818	448.0	404.5	852.5	440	347	787
	3校計	934.3	950.8	1885.2	1307	1039	2346	1516	962	2478	1411.5	1000.5	2412.0	1548	808	2356
早稲田大学	青山	25.8	33.7	59.5	47	37	84	46	32	78	46.5	34.5	81.0	38	15	53
	立川	21.2	26.0	47.2	24	28	52	32	44	76	28.0	36.0	64.0	36	27	63
	国立	53.0	60.5	113.5	72	68	140	75	55	130	73.5	61.5	135.0	66	37	103
	3校計	100.0	120.2	220.2	143	133	276	153	131	284	148.0	132.0	280.0	140	79	219
慶応義塾大学	青山	12.2	13.0	25.2	16	13	29	15	6	21	15.5	9.5	25.0	22	8	30
	立川	9.0	9.8	18.8	10	3	13	9	8	17	9.5	5.5	15.0	13	8	21
	国立	23.5	26.2	49.7	28	24	52	46	22	68	37.0	23.0	60.0	23	26	49
	3校計	44.7	49.0	93.7	54	40	94	70	36	106	62.0	38.0	100.0	58	42	100
上智大学	青山	6.7	7.8	14.5	11	7	18	20	3	23	15.5	5.0	20.5	16	3	19
	立川	7.2	4.8	12.0	8	8	16	16	19	35	12.0	13.5	25.5	7	7	14
	国立	14.0	15.0	29.0	19	10	29	33	10	43	26.0	10.0	36.0	20	8	28
	3校計	27.8	27.7	55.5	38	25	63	69	32	101	53.5	28.5	82.0	43	18	61
3大学計	青山	44.7	54.5	99.2	74	57	131	81	41	122	77.5	49.0	126.5	76	26	102
	立川	37.3	40.7	78.0	42	39	81	57	71	128	49.5	55.0	104.5	56	42	98
	国立	90.5	101.7	192.2	119	102	221	154	87	241	136.5	94.5	231.0	109	71	180
	3校計	172.5	196.8	369.3	235	198	433	292	199	491	263.5	198.5	462.0	241	139	380

注 3大学＝早稲田大学、慶応義塾大学、上智大学  
平成20年度とは、平成20年3月卒業生徒の合格者数を指す。それ以外についても同様  
平均値の端数処理は、現役・浪人・計のそれぞれで四捨五入しているため、現役+浪人＝計とならない場合がある。

進学指導特別推進校(小山台高校、駒場高校、新宿高校、町田高校、国分寺高校)の「国立大学」合格状況

平成20年4月30日現在

大学	高等学校	平成17年度			平成18年度			平成19年度			17~19年度平均			平成20年度		
		現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計
国立大学合計	小山台	16	17	33	38	10	48	29	12	41	27.7	13.0	40.7	31	4	35
	駒場	20	14	34	30	9	39	31	10	41	27.0	11.0	38.0	25	14	39
	新宿	18	15	33	17	10	27	33	9	42	22.7	11.3	34.0	23	14	37
	町田	29	17	46	30	15	45	29	9	38	29.3	13.7	43.0	34	15	49
	国分寺	50	24	74	53	24	77	49	10	59	50.7	19.3	70.0	60	23	83
	5校計	104	70	174	168	68	236	171	50	221	169.5	59.0	228.5	173	70	243
東京大学	小山台	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0	0
	駒場	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.0	0.3	0.3	0	0	0
	新宿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0	0
	町田	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0.3	0.0	0.3	1	0	1
	国分寺	1	0	1	0	1	1	2	0	2	1.0	0.3	1.3	1	2	3
	5校計	1	0	1	0	1	1	2	1	3	1.0	1.0	2.0	2	2	4
東京工業大学	小山台	1	0	1	1	0	1	2	2	4	1.3	0.7	2.0	2	1	3
	駒場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	1	1
	新宿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	1	0	1
	町田	3	0	3	1	0	1	1	2	3	1.7	0.7	2.3	0	0	0
	国分寺	1	1	2	3	1	4	0	0	0	1.3	0.7	2.0	2	1	3
	5校計	5	1	6	5	1	6	3	4	7	4.0	2.5	6.5	5	3	8
一橋大学	小山台	0	1	1	2	0	2	2	0	2	1.3	0.3	1.7	1	0	1
	駒場	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0.3	0.3	0.7	0	1	1
	新宿	0	2	2	0	0	0	2	0	2	0.7	0.7	1.3	0	0	0
	町田	1	1	2	1	1	2	0	0	0	0.7	0.7	1.3	1	0	1
	国分寺	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1.0	1.0	2.0	1	0	1
	5校計	3	3	6	4	2	6	5	2	7	4.5	2.0	6.5	3	1	4
京都大学	小山台	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0	0
	駒場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0	0
	新宿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0	0
	町田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0	0
	国分寺	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0.3	0.0	0.3	0	0	0
	5校計	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0.5	0.0	0.5	0	0	0
4大学計	9	4	13	10	4	14	10	7	17	10.0	5.5	15.5	10	6	16	
医学部医学科	小山台	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0.0	0.3	0.3	0	0	0
	駒場	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0.0	0.7	0.7	0	0	0
	新宿	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0.0	0.3	0.3	0	0	0
	町田	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0.0	0.3	0.3	0	0	0
	国分寺	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0.0	0.7	0.7	0	1	1
	5校計	0	2	2	0	4	4	0	0	0	0.0	2.0	2.0	0	1	1
4大学+医学部医学科	小山台	1	1	2	3	1	4	4	2	6	2.7	1.3	4.0	3	1	4
	駒場	1	1	2	0	1	1	0	2	2	0.3	1.3	1.7	0	2	2
	新宿	0	3	3	0	0	0	2	0	2	0.7	1.0	1.7	1	0	1
	町田	5	2	7	2	1	3	1	2	3	2.7	1.7	4.3	2	0	2
	国分寺	3	2	5	5	5	10	3	1	4	3.7	2.7	6.3	4	4	8
	5校計	10	9	19	10	8	18	10	7	17	10.0	7.5	17.5	10	7	17

注 4大学=東京大学、東京工業大学、一橋大学、京都大学

平均値の端数処理は、現役・浪人・計のそれぞれで四捨五入しているため、現役+浪人=計とならない場合がある。

# 進学指導特別推進校(小山台高校、駒場高校、新宿高校、町田高校、国分寺高校)の「私立大学」合格状況

平成20年4月30日現在

大学	高等学校	平成17年度			平成18年度			平成19年度			17～19年度平均			平成20年度		
		現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計
私立大学合計	小山台	423	138	561	575	166	741	604	149	753	534.0	157.5	685.0	623	127	750
	駒場	440	175	615	558	150	708	586	159	745	572.0	154.5	689.3	483	218	701
	新宿	241	213	454	360	178	538	528	292	820	444.0	235.0	604.0	507	276	783
	町田	289	201	490	419	213	632	320	124	444	369.5	168.5	522.0	339	118	457
	国分寺	592	222	814	638	230	868	626	169	795	632.0	199.5	825.7	675	204	879
	4校計	1744	736	2480	2190	759	2949	2136	601	2737	2163.0	680.0	2843.0	2120	667	2787
早稲田大学	小山台	12	5	17	25	8	33	27	12	39	26.0	10.0	29.7	34	15	49
	駒場	26	24	50	22	20	42	17	15	32	19.5	17.5	41.3	31	30	61
	新宿	11	19	30	11	7	18	25	10	35	18.0	8.5	27.7	29	22	51
	町田	17	5	22	11	14	25	10	8	18	10.5	11.0	21.7	10	9	19
	国分寺	36	15	51	36	27	63	32	14	46	34.0	20.5	53.3	34	15	49
	5校計	76	44	120	83	56	139	94	44	138	88.5	50.0	138.5	107	61	168
慶應義塾大学	小山台	5	1	6	9	4	13	7	4	11	8.0	4.0	10.0	4	5	9
	駒場	6	1	7	7	1	8	9	3	12	8.0	2.0	9.0	6	6	12
	新宿	2	4	6	4	2	6	7	5	12	5.5	3.5	8.0	9	5	14
	町田	6	4	10	8	4	12	1	5	6	4.5	4.5	9.3	4	3	7
	国分寺	9	1	10	12	8	20	9	8	17	10.5	8.0	15.7	12	4	16
	5校計	22	10	32	33	18	51	24	22	46	28.5	20.0	48.5	29	17	46
上智大学	小山台	12	2	14	19	12	31	12	5	17	15.5	8.5	20.7	10	0	10
	駒場	7	5	12	8	4	12	7	6	13	7.5	5.0	12.3	5	7	12
	新宿	2	1	3	2	1	3	4	2	6	3.0	1.5	4.0	11	2	13
	町田	2	2	4	7	6	13	7	1	8	7.0	3.5	8.3	1	3	4
	国分寺	9	6	15	14	4	18	10	7	17	12.0	5.5	16.7	12	8	20
	5校計	25	11	36	42	23	65	33	15	48	37.5	19.0	56.5	34	13	47
3大学計	小山台	29	8	37	53	24	77	46	21	67	49.5	22.5	60.3	48	20	68
	駒場	39	30	69	37	25	62	33	24	57	35.0	24.5	62.7	42	43	85
	新宿	15	24	39	17	10	27	36	17	53	26.5	13.5	39.7	49	29	78
	町田	25	11	36	26	24	50	18	14	32	22.0	19.0	39.3	15	15	30
	国分寺	54	22	76	62	39	101	51	29	80	56.5	34.0	85.7	58	27	85
	5校計	123	65	188	158	97	255	151	81	232	154.5	89.0	243.5	170	91	261

注 3大学=早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学

平均値の端数処理は、現役・浪人・計のそれぞれで四捨五入しているため、現役+浪人=計とならない場合がある。

## 第2章 進学指導重点校・進学指導特別推進校の取組状況

### 1 学校の概要

#### (1) 目指す学校

現在、都立学校では、毎年「学校経営計画」を策定し、ホームページ等で公表している。学校経営計画は、校長が「目指す学校」を明らかにし、当該年度の教育活動の具体的な目標と方策を設定することにより、教職員全員がこれら具体的な目標に向かって協働体制を確立し、都立学校の自律的な改革と教育の質的向上を図るためのものである。

また、学校経営計画は、都民に対する「公約」の役割をもつものである。

各校は、学校経営計画に基づき、「目指す学校」を作り上げていく中で、生徒が確かな学力を身に付け、自己の進路を主体的に選択できるよう、進路指導に取り組んでいる。

#### 進学指導重点校

学校名	目指す学校
日比谷	<p>よき伝統と自主・自律の校風を継承・発展させ、生徒一人一人のもつ個性や能力の十分な伸長を図り、二十一世紀を逞しく切り拓くリーダーを育てる。</p> <p>また、東京都教育委員会「進学指導重点校」として、意欲と活力に満ち使命感のある教職員の一致協力した学校運営に努め、都立高校を代表する骨太で重厚な進学校としての充実を図る。</p> <p>(1) 今後の都立高校のあるべき姿を見だし、保護者・都民の期待にこたえる、魅力ある質の高い進学校として、生徒・保護者・地域・都民等、広く社会に開かれた教育活動を実践する。</p> <p>(2) 学校週5日制のもと、自校の課題を明確にし、全人教育の視点に立った進学重視の教育課程を実施する。</p> <p>(3) 生徒と保護者、都民への信頼にこたえるための教職員の意識改革を一層進める。</p>
戸山	<p>百二十年の歴史と伝統を受け継ぎ、将来我が国の有益な社会の形成者として、また世界にはばたくリーダーとしての育成を目指す。</p> <p>(1) 生徒一人一人を大切に、学問に対する興味・関心を深められる授業が行われ、生徒が生き生きと学ぶ喜びを知ることのできる教育を推進する。</p> <p>(2) 生徒が自主的・計画的・継続的に学習を進め、学校行事や委員会・部活動等へ積極的に参加し、自らの意志と努力で高校生活の創造を目指す。</p> <p>(3) 生徒の能力・適性を伸ばし、進路選択を支援するとともに、教師自身が課題に取り組み、指導力・専門的知識の向上に努める。</p>
西	<p>本校の歴史と伝統を受け継ぎ、使命感・倫理観をもった教職員の協働体制のもと、豊かな知性・教養、健やかにして自律した個性をもつ調和のとれた人間の育成に努め、生徒一人一人の自己実現を支援し、国際社会で活躍できる人材を育てる学校づくりを目指す。結果として「ここで学べて」「ここに置いて」「ここで勤めて」よかったといえる学校をつくる。</p>
八王子東	<p>本校の教育が目指すところは、将来わが国を背負って立つ有為なリーダーの育成である。そのために創設以来、「健康」「勉学」「良識」を教育目標に掲げ、バランスのとれた教育課程を編成することで、高い学力を備え心身健康で良識あふれる人材の育成に努める。</p> <p>指導に当たっては高い理想をもたせ勉学に励ませつつも、学校行事や部活動に大いに取りこませることで、健全な心身の成長を促し、都立高校の本当の良さを保ちながらも、難関国公立大学、難関私立大学への進学実績を着実に伸ばすよう努める。さらには、教職員が一丸となって学校運営に参画し、指導方法の工夫・改善などの諸課題について具体的な方策を立て実践することで高度で実践的な教育力を堅持することを目指す。</p> <p>八王子東高校では、教科学習においては個に応じた丁寧な指導を継続するとともに、生徒の豊かな感性や優れた個性を尊重しつつ、伸び伸びとした学校生活を提供して、一人一人の成長を学校全体で支援する。今後更に生徒及び保護者の期待にこたえるべく研修・研究・実践に努める。</p>

青山	<p>(1)「難関国公立大を目指す」進学校として生徒の進路実現の為、厳しくも面倒見の良い学校を目指す。</p> <p>(2)高き目標に向けひたすら努力し、安易な妥協はしない青高スピリットを涵養する。学習環境を整え、授業で勝負</p> <p>(3)規律ある学校生活。知徳体のバランスのとれた全人教育を目指す。</p>
立川	<p>本校の教育目標及び百有余年の歴史と伝統を踏まえ、進学指導重点校としての期待にこたえるために、多摩地域の高等学校教育の中核を担う学校として一層発展する。</p> <p>(1)「学力をつけ、人間を<small>はぐく</small>む」、学校教育本来の目的の達成をとおして、将来、国家及び社会の有益な形成者として必要な資質を養い、生徒一人一人の進学希望の実現を図る。</p> <p>(2)保護者・同窓生・地域関係者等との連携を強め、開かれた学校づくりを積極的に展開して都民の信頼と期待にこたえる教育を推進する。</p>
国立	<p>(1)70年に近い本校の歴史と伝統を受け継ぎ、教育公務員としての自覚と使命感を堅持して、本校の教育目標を達成し、一人一人の生徒の自己実現が図れる学校づくりを目指す。</p> <p>(2)21世紀の我が国で活躍し、世界に貢献することのできる人材を育成するために、従来の慣習にとらわれることなく、開かれた学校づくりを全教職員の叡智を集めて積極的に推進する。</p> <p>(3)本校の校風である文武両道を推進するために、授業や自学自習の実践等を通じ学習面での支援を行う。また、生徒が文化的・体育的活動に打込める環境を維持し、これまで30余年継続してきた春の第九演奏会と、半世紀以上実施してきた秋の国高祭を本校最大の行事として取り組み、本校教育活動の成果として可能な限り都民や地域に積極的に公開する。</p> <p>(4)都立高校有数の進学校としての役割を一層果たすために、国公立大学合格者数160名以上(内東大合格者数20名)を当面の数値目標として進学指導に取り組み、生徒の進路希望を実現し、保護者の願いや都民の期待にこたえていく。</p>

#### 進学指導特別推進校

学校名	目指す学校
小山台	<p><b>進学指導の充実を目指す学校</b> 生徒一人一人の個性や能力に応じた進路希望を実現させる。そのため、自己の目標を見つけ、それに向かって自らの能力や適性をのばし、挑戦しつづける生徒を育てる。</p> <p><b>行事や部活動(班活動)の充実を目指す学校</b> 行事や部活動(班活動)等への積極的な参加を奨励し、教員の指導のもと、生徒の自主性を育ててその活性化を図り、心身の健康や個性の伸張を図る。</p> <p><b>国際交流の推進により豊かな人間性を育む学校</b> 国際交流を通して、国際的視野をもち、豊かな人間性をはぐくみ、社会に活躍する人材を育てる。</p> <p>生徒へのきめ細かい指導・支援体制を整備して進路実現に取り組みせるとともに、学習と特別活動を両立させて調和のとれた良識ある人材の育成を図る。生徒・保護者からは、「ここで学べてよかった」「ここに入れてよかった」といえる満足度の高い学校にするとともに、地域や都民からは「あの学校に行かせたい」といわれる信頼される学校にする。</p>
駒場	<p>百年を超える歴史と伝統のもと、進学校としての高い評価を得るとともに、文武両面にわたり芸術・スポーツ活動などにも輝かしい実績を築き、社会の様々な分野で活躍する人材を輩出してきた。このような良き伝統を継承するとともに、社会の変化に柔軟に対応し、生徒・保護者・地域社会からの期待と信頼に応える教育の実現を図る。</p> <p>「進学指導特別推進校」指定を活かし、「ハイレベルの文武両道の進学校」として、</p>

	<p>生徒一人一人が、意欲的に「学習」と「部活動・学校行事」の両面に励み、「高い学力」と「豊かな人間性」をしっかりと身に付け、自らの進路希望に向けて積極的に取り組み、希望を実現させる学校づくりを進める。</p> <p>また、普通科・保健体育科併設の特徴を活かし、相互に良好な影響を及ぼし合う良き校風を維持・醸成し、考える力、判断力、自律の態度、規律性、人間性などリーダーの資質を身につけるとともに、希望の進路を実現させることができる、創造性と活力の溢れる学校を目指す。</p>
新宿	<p>創立以来の精神「全員指導者たれ」を根本方針として、21世紀グローバル社会のリーダーたり得る人材を育成する。教育目標である『自主・自律』『人間尊重』の大前提として『自律』を学校生活の基本方針とする学校を目指す。</p> <p>平成15年度の「進学重視型単位制高校」、平成19年度の「進学指導特別推進校」としての指定を踏まえ、その使命を達成するため次の諸方策を中期的目標に掲げる。</p> <p>(1)「文・武・探」三道の確立</p> <p>文：授業改革を一層推進し「学ぶ意欲・喜び」を涵養し、進学実績を向上させる。  難関校を含めた国公立大および難関私大の合格者を1.3倍増とする。</p> <p>武：部活動、学校行事等の特別活動、課外活動を通して「協力」「忍耐」「規範意識」を涵養する。</p> <p>探：社会の一員として自己の生き方・在り方を探求する姿勢と高い志を育成する。</p> <p>(2)「自律的生活習慣」の確立</p> <p>「自主・自律」の前提である「規範意識」の育成や、「時間厳守、挨拶」等具体的な自己管理能力の育成を通じて、真の「自由と規律」の両立を図る。</p> <p>(3)学校経営計画に基づき、一人一人の教職員が自らの目標を設定し、不断に検証・改善を行う自責型人間として、生徒の教育活動に一丸となって取り組む学校をつくる。</p>
町田	<p>学習活動並びに特別教育活動の両面の充実を図ることにより、生徒に人生を生き抜く真の実力を身につけさせることを目標とする。将来にわたって健全なる社会の構成員としての資質をはぐくむとともに、そのリーダー足りうる人材の育成といった社会の要請に十分にこたえていく。</p> <p>特に、三方を他県に囲まれ、地域完結型の教育を望む住民の期待にこたえ、地域の教育活動の拠点としての実績を積み重ねることにより、地域に密着した学校、住民から信頼される学校、都民にとって魅力ある学校を目指し、ひいては将来の国民のリーダーを育てる学校となる。</p> <p>以上のような全人的教育に力を入れ、その結果として、国公立大学をはじめとする難関大学への進学実績を向上させる。</p>
国分寺	<p>本校は、「科学の進歩の著しい時代を生き抜くために、教養を深め、進取の気性を養い、知、情、意を兼ね備え、調和の取れた人間の育成を目指す」という教育目標にのっとり、</p> <p>(1)進学重視型単位制高校として、公立中学校を卒業した生徒が3年間で難関国公立大学を含む希望大学へ進学することを可能にし、グローバル社会の指導的人材を育成する学校</p> <p>(2)現役での進路希望実現に必要とされる学習の質と量とを、習熟度別指導・少人数指導や充実した内容の選択科目の設置、平日や長期休業日の補習・講習等で保証する学校</p> <p>(3)実績ある多数の運動部・文化部等の活動、生徒全員が参加する木もれ陽祭等の特別活動をとおして、知育のみに偏らず徳育・体育にも力を注ぎ、生徒の全人的な発達を目指す学校</p> <p>(4)総合的な学習の時間、高大連携・接続教育、オーストラリア語学研修等による国際交流活動など、多様な学習の機会をとおして、進路目標を考えさせ個に応じた教育を推進する学校となることを目指す。</p>

(2)平成19年度の数値目標

学校経営計画には、数値目標が盛り込まれている。具体的に数値による目標を示すことで、目標や方向性がより明確になり、学校全体が目標達成に向けて具体的な方策を掲げ、組織を挙げて取組みを行うことが期待できる。さらに、数値目標を用いることで達成状況が明らかになり、また、評価も客観的になるため、都民の目からも達成状況が理解しやすくなる。

平成19年度に各学校が示した大学合格者数等進学実績に関わる主な数値目標と、その達成度は次のとおりである。

#### 進学指導重点校

学校名	数値目標	実績・目標達成度
日比谷	各学年生徒数 320 人全体の指標として 19 年度の目安とする。	
	・ 難関大学の現役合格者数の向上を目指す。 難関国公立大学及び医学部医学科 35 名以上	実績 21 名、目標達成度 60.0%
	・ 難関3私立大学 190 名以上	実績 153 名、目標達成度 80.5%
	・ 国公立大学の現役合格者 100 名以上	実績 72 名、目標達成度 72.0%
	・ センター試験(5教科)受験者 250 名以上	実績 296 名、目標達成度 118.4%
	・ センター試験 5 教科の各教科得点率 80%以上の者の延べ人数 700 名以上	実績 807 名、目標達成度 115.3%
・ 大学現役進学率 60%程度を維持	実績 59%、目標達成度 98.3%	
戸山	・ センター試験 6 教科 7 科目以上の平均得点率 80%以上の者の延べ人数 60 名以上	実績 55 名、目標達成度 91.7%
	・ 難関大学等合格者 国公立(現浪合計) 50 名以上 東大・東工大、一橋大、京大、北大、東北大、筑波大、東京外語大、お茶の水大 私立(現浪合計) 450 名以上 早稲田、慶応、上智、中央、東京理科、法政、明治、立教、青山学院	実績 38 名、目標達成度 76.0%  実績 537 名、目標達成度 119.3%
	・ 国公立大学医学部医学科・歯学部合格者数(現浪合計) 20 名以上	実績 27 名、目標達成度 135.0%
西	・ 生徒の第一志望校進学率 100%	実績 105 名(175 名中)、目標達成度 60.0%
八王子東	・ センター試験 5 教科 7 科目型受験者数 200 名	実績 212 名、目標達成度 106.0%
	・ センター試験の 5 教科 7 科目型 (900 点満点) 平均 700 点	実績 664 点、目標達成度 94.9%
	・ 夏期講習 40 講座 3,000 名	実績 65 講座 / 3,975 名 目標達成度 162.5% / 132.5%
	・ 冬期講習 20 講座 800 名	実績 12 講座 / 1,294 名 目標達成度 60.0% / 161.8%
青山	・ 国公立大学合格者 70 名	実績 63 名、目標達成度 90.0%
	・ センター試験受験 100%	実績 98%、目標達成度 98.0%
	・ 難関私立大学(早稲田、慶応、上智、東京理科、ICU)現役合格 100 名	実績 116 名、目標達成度 116.0%
	・ 現役合格進学率 80%	実績 66.2%、目標達成度 82.8%
	・ センター試験の平均得点が全教科で 全国平均より 15%以上	1 科目を除き、全国平均より 10%以上 (うち、8 科目は 15%以上)
立川	・ 現役大学進学率 65%以上	実績 67.8%、目標達成度 104.3%

	・国公立大学現役合格者 80名以上	実績75名、目標達成度93.8%
	・早稲田・慶応・上智 現役合格者 60名以上	実績56名、目標達成度93.3%
国立	・国公立大学合格者160名 (うち東大合格者20名)	実績183名、目標達成度114.4% (東大合格者5名、目標達成度25.0%)

進学指導進学指導特別推進校

学校名	数値目標	実績・目標達成度
小山台	・難関国公立大合格者(現浪合計) 10名以上	実績4名、目標達成度40.0%
	・国公立大学合格者(現浪合計) 40名以上	実績35名、目標達成度87.5%
	・早稲田、慶應、上智合格者 (現浪合計) 100名以上	実績68名、目標達成度68.0%
駒場	・大学入試センター試験受験者のうち 平均得点率80%以上 30名以上	実績32名、目標達成度106.7%
	平均得点率75%以上 100名以上	実績67名、目標達成度67.0%
	5教科6科目以上で受験 50名以上	実績58名、目標達成度116.0%
	・国公立大学合格者(現浪合計) 45名以上	実績39名、目標達成度86.7%
	・早稲田・慶応・上智合格者 (現浪合計) 60名以上	実績87名、目標達成度145.0%
	・早稲田・慶応・上智・東京理科・明治・青学・ 立教・中央・法政大現役合格者 200名以上	実績187名、目標達成度93.5%
新宿	・東大、東工大、一橋大合格者(現役) 各1名	実績1名(東大0名、東工大1名、一橋大0名)、 目標達成度33.3%
	・国公立大学合格者(現役) 25名以上	実績23名、目標達成度92.0%
	・私立大学 下記3大学 25名以上 (早稲田17名、慶應5名、上智3名)	実績49名(早稲田29名、慶應9名、上智11名)、 目標達成度196.0%
	・現役大学進学率 65%以上	実績69.2%、目標達成度106.5%
	・センター試験 5教科受験者 60名以上 得点率80%以上 2名	実績74名、目標達成度123.3% 実績7名、目標達成度350.0%
町田	・国公立大学合格者数 現役合格者 35名以上	計34名 目標達成度97.1%
	・私立大学合格者数(早稲田、慶應、上智) 現役合格者 20名以上	実績15名、目標達成度75.0% (早稲田10名、慶應4名、上智1名)
	・国公立大学の合格者数 過去3年間の実績平均(29.3名)の5%増	実績34名・16%増、目標達成度320.0%
	・現役進路目標達成度 75%以上	実績68.1%、目標達成度90.8%
	・センター試験・各科目の得点率80%以上 受験者の35%以上	実績 平均20.3%、目標達成度58.0%
	・課外補習・補講の充実を図り、 生徒の参加数 前年度比5%増	実績10%増、目標達成度200% (土曜講習参加者数：前年度の2.5倍)

国分寺	・難関国公立大学現役合格3名以上を含む 国公立大学現役合格 50名以上	実績60名、目標達成度120.0%
-----	---	-------------------

・難関私立大学現役合格	70名以上	実績 77名、目標達成度 110.0%
<b>【3年次生】</b>		
・現役進学率	75%以上	実績 77.9%、目標達成度 103.9%
・国公立型センター試験(5教科)受験者数	120名以上	実績 128名、目標達成度 106.7%
・センター試験高得点(80%以上)者数	5教科14科目において 延べ 320名以上	実績延べ 387名、目標達成度 120.9%
<b>【1・2年次生】</b>		
・実力テスト(2・3回目)における3教科総合高得点率の延べ人数	Sクラス(65以上*)各学年延べ 100名 Aクラス(57以上*)各学年延べ 300名以上	Sクラス(1年)実績延べ 107名、目標達成度 107.0% Sクラス(2年)実績延べ 70名、目標達成度 70.0% Aクラス(1年)実績延べ 294名、目標達成度 98.0% Aクラス(2年)実績延べ 260名、目標達成度 86.7%
*65及び57の数値は、国分寺高校で設定。Sクラスは難関大学への合格水準が高いクラス、Aクラスは国公立及びMARCHへの合格水準が高いクラスである。		
・2年次のセンター形式実力テストにおける3教科総合の得点率 70%以上 100名以上		実績 44名、目標達成度 44.0%

## 2 取組状況

### (1) 進学実績の向上に向けた取組

進学実績の向上に向けて、進学指導や教科指導等で、指定後これまでにやってきた特徴的な取組や、平成19年度特に力を入れた取組を記載した。

進学指導重点校7校と進学指導特別推進校5校の取組みから読み取ることができるのは、学校が校長のリーダーシップのもと、教職員の組織的、継続的な進学指導体制づくりを進めていることである。自校作成の実力テストなどによる生徒の学力や進路希望等の実態を把握し、その情報を共有化している。また、授業のみならず補習や講習などによる学習指導の改善に取り組んでいる。

#### 進学指導重点校

学校名	取組内容
日比谷	<p><b>改革第一ステージ「骨太で重厚な進学校」</b></p> <p><b>独自入試</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公立高校として全国で始めて<b>独自入学検査問題</b>による入学者選抜を実施した。</li> </ul> <p><b>45分7時間授業の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔軟な単位配当や時間割作成ができるように45分7時間授業とした。地歴・公民、理科を全員履修科目とし、<b>国公立大学の入試に対応すると同時に、物事の本質を探究する基礎となる幅広い分野の学習を</b>保証している。</li> </ul> <p><b>3年間を見通した進学指導システム</b></p> <p>(シラバス): シラバスを生徒と教職員との共通の達成目標として位置づけ、各教科・科目の目標設定と目標管理を行っている。</p> <p>(授業評価): 「生徒による授業評価」を年2回実施し、結果を課題発見の手がかりとしている。各教科で総括し、シラバス及び指導の改善に反映させている。</p> <p>(定点観測): 進学指導検討会「定点観測」を年2回、全教員で実施し、入試・定期考査・<b>年3回の外部模試</b>等の成績の推移と経年比較及び他の有力校とのデータ比較で現状分析を行う。<b>各教科の改善策・強化策はシラバスと指導の改善に生かしている。</b></p>

	<p><b>土曜、夏期講習の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1・2年生は国語・数学・英語を中心に、3年生は5教科で土曜講習を、夏季休業中は3年生を中心に90分5日間を1講座として約100講座を実施している。</li> </ul> <p><b>進路指導通信の発行</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年で月1回「進路指導通信」を発行し、情報の提供と共有化を図っている。</li> </ul> <p><b>進学個別相談・出願指導の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二者・三者による面談を年4回実施している。3学年ではセンター試験自己採点結果票の返却時に集会で、<b>全国の状況分析・二次試験の出願指導</b>を行っている。</li> </ul> <p><b>学年職員室の設置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の担任だけでなく他学年との情報交換を図り、上の学年から下の学年へ進路指導を継承し発展させるように、担任が一堂に会する学年職員室を活用した。</li> </ul> <p><b>改革第二ステージ「学問の本質を極める力を培う」</b></p> <p>学問の本質的な面白さを味わわせ物事の本質を探究する姿勢を培うために主要5教科の指導力をさらに向上させる。特に<b>理数教科</b>で面白さや楽しさを追求する。</p> <p><b>SSH(スーパーサイエンスイカール)の取組</b></p> <p>全科目履修型・教養主義カリキュラムの方針のもと、すべての生徒に理科の面白さや大切さが分かるように様々な学習の機会を計画し実施している。</p> <p><b>特別講演会</b> チャールズ・ダーウィン研究所長、日赤医療センター所長(医師という仕事)</p> <p><b>大学との連携</b> 東大生産研究所と連携した講義、東大ビッグバンセンター訪問と講義、ハワイ大学教授によるSSHイカールリッチ講義</p> <p><b>野外実習(実物体験)</b> 大島地学巡検、生物臨海実習</p> <p>物理・化学・生物・地学の<b>自主探究講座による科学研究</b>(例：一塩基多型の解析) 科学コンテスト(全国物理チャレンジ銀賞・JSEC審査員特別賞)や生物リリックへの挑戦。</p> <p>学問に対する積極的な姿勢は学力向上の基盤となり、国際性ある科学者が育成され、<b>本校からの2人目のノーベル賞科学者が現れる</b>布石となる。</p>
戸山	<p>(1) 1年生が夏休みに勉学を励むように、夏期講習を大いに充実させた。また、2学期始めに英数国理社の全5教科による校内作成の実力考査を実施した。</p> <p>(2) 同じく、2年生が夏休みに勉学を励むように、夏期講習を大いに充実させた。また、2学期始めに英数国理社の全5教科による校内作成の実力考査を実施した。</p> <p>(3) 3年生が少しでも早く受験体制に入るように、4月末に、英数国理社の全5教科による校内作成の実力考査を実施した。</p> <p>(4) 1年生及び2年生が難関大学へのモチベーションを高めるように、全生徒に対して、大学訪問を実施させた。</p> <p>(5) 本来は3年生が受けるべき、センター試験プレテスト(模擬試験)を2学年の全生徒に受験させた。</p> <p>(6) センター試験当日に、まったく同じ試験問題に挑む、「リアルセンターテスト」を多くの2年生に受験させた(207名)。</p> <p>(7) 1年生から3年生までを通じて、外部模擬試験を数多く受験させた。</p>
西	<p><b>質の高い授業の創造</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と教員とで質の高い授業を創造するために、年2回の教員間の授業の見せ合い、年9回の校内研修を実施し、<b>本校で目指すべき授業のあり方</b>について教員間で共有した。</li> <li>・教員から生徒へ知識を伝達していく部分のほかに、生徒と教員とのやりとり、生徒間のやりとりを通して、自分で考え、それを表現する場面をつくり、<b>知識の活用や結合、論理的思考力の育成</b>に努めた。</li> </ul> <p><b>講習・補習による学習支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学びへの願いにこたえるべく、基礎・教養・受験対策など本校教員による<b>土曜特別講座</b>を28講座実施した。また、主に受験対策を中心とした<b>夏期講習</b>を64講座実施し、延べ4791名の生徒が参加した。平日の朝、放課後などに生徒の希望に応じた<b>補習や講習</b>を63講座実施し、学習支援をした。</li> </ul>

	<p><b>校内実力考査の実施と活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自校作成問題による<b>校内実力考査</b>を全学年とも年2回実施した。進路部が出題のねらい、予想平均点と実際の平均点、生徒の現状と課題等について各教科から集約し、全教員で共有した。過去3年間の<b>校内実力考査の偏差値と大学合否データ</b>を生徒に情報提供し、学習への動機付けをした。</li> </ul> <p><b>生徒の意識高揚</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の高い進学志望を実現するためには、入学時から継続して学習・生活・進路に対する意識を高める取組が必要であると考え、<b>情報集約</b>を始めた。</li> <li>・具体的には、入学時からの生徒の教科別の成績推移、所属部活動名・委員会名、欠席・遅刻・早退の状況、進路希望を<b>データベース化</b>し、担任以外の教員が閲覧し、それぞれの関わりの中で生徒を励ます指導ができるように整備した。</li> </ul> <p>現在は、これまで実践してきた進路指導を踏まえ、『<b>進路ノート</b>』を生徒一人一人に持たせ、学びや生活、進路に関する記述を記録して高い意識を継続してもたせる取組を検討している。</p>
八王子東	<p>(1) 校内進路資料の作成と活用について</p> <p>現役の国公立大学合格者98名について、合格した大学の難易度をもとに3つのグループ分け、それぞれのグループ別に合格者の情報を次の観点で整理・分析し、きめ細かい正確なデータに基づく説得力のある進路指導資料を作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>センター試験自己採点結果</li> <li>3年間の評定平均値(国数英歴公理)</li> <li>3年次の実力テスト(3回)の成績</li> </ul> <p>(2) 1・2年次実力テスト(6回)の成績推移</p> <p>この進路指導資料を教員間で共有化し、次のような目的で活用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の3年間を見通した学習指導の結果検証と課題の発見・解決のための資料</li> <li>各学年が学年集会で見通しの良い進路指導を行うための資料</li> <li>各担任が面談指導(二者・三者)で面倒見の良い進路指導を行うための資料</li> <li>学年保護者会・PTA講演会で「保護者に対する進路指導」を行うための資料</li> </ul> <p>校内データを整備することで、安易に予備校など外部の力に頼ることなく、特色ある進路指導ができると考える。特に については、学校としての進路指導方針を周知徹底させるとともに、学校広報の観点からも保護者のニーズを詳細に知り、その期待にこたえる内容にすることが課題である。また、こうした取組によって、八王子東高校をよく知っていただき、サポーターを増やすことも課題である。</p> <p>(3) 1・2年における進路指導の充実</p> <p>1・2年次実力テスト(6回)の成績推移について分析し、全国の有力進学校と比較検討すると、1年後半から2年前半にかけて成績が下降することが本校における進路指導の大きな問題となっている。この問題を解決するための方策の1つとして拡大学年会・進路検討会を充実させた。これは多くの教員が拡大学年会・進路検討会に積極的に参加することで「全教員の進学指導力」を向上させるための研修の場にもなり、教員によるブレのない進路指導体制を構築するためにも効果がある。</p> <p>拡大学年会は、1年が10月と2月、2年が5月と10月である。</p> <p>テーマは時期に応じて、学習状況に問題のある生徒の発見、上位の生徒の育成、志望状況の確認などである。</p> <p>事前に当該学年の進路調査結果、実力テスト分析を学年・進路で行い問題点を整理する。また、それぞれの会の目的に沿う形で個人データの整理を行う。</p> <p>教科担当者・部活動顧問に生徒の状況に関するアンケートを実施する。</p> <p>担任は、この会を通して一人一人の生徒の情報を複数の視点で確認し、面談指導に臨むので説得力のある面談指導ができる。また、教科担当者は、一人一人の生徒の学習状況を自分の教科だけでなく、全体として捉えることができるので、生徒の得意・不得意を理解した上で個別指導を行うことができる。</p> <p>担任・教科担当・部活動顧問のどの担当も、生徒と教師の間の距離感を近づけて指導することになるので生徒・保護者の進路指導に満足度が高まることが期待</p>

	<p>できる。</p> <p>多くの教員が拡大学年會・進路検討會に積極的に参加することで「教員の進学指導力」を向上させるための研修の場にもなり、教員によるブレのない進路指導体制を構築するためにも効果的であった。したがって、多くの教員が意欲と目的意識をもって参加できるように工夫をすることが課題である。</p>
<p>青山</p>	<p>(1) 生徒対象</p> <p>外部模試試験の導入 1年・2年生年3回実施。3年生年4回実施</p> <p>組織的補習体制の実施</p> <p>各学期および夏、冬、春季(4月に募集時期等を発表)年160講座 延3、200名受講</p> <p>予備校サテライトビデオ講座の実施</p> <p>数学：1年生57名(通年90分×22回実施)、2年生：32名(1・2学期 90分×11回)</p> <p>地学：3年生4名(90分×5回)</p> <p>夏季集中英語講座の実施 1年生24名、2年生9名</p> <p>大学模擬講義の実施</p> <p>1年生(12月20日実施・15大学参加)、2年生(12月21日実施・14大学参加)</p> <p>大学別入試説明会 3年生(9月19日実施)</p> <p>センター模擬試験解答分析会</p> <p>「センター試験を前にしての心構え」</p> <p>代々木ゼミナール仙台校 進学課長 繁泉先生来校</p> <p>進路ガイダンスと卒業生による進路懇談会</p> <p>進路ガイダンス(3年生対象・4月11日実施)</p> <p>卒業生による進路ガイダンス(9月10日実施)</p> <p>センター試験説明会 (9月12日実施)</p> <p>東大キャンパスツアー (10月28日実施)</p> <p>秋山仁先生講演会 (11月21日実施)</p> <p>(2) 教員対象</p> <p>進路職員会議の実施</p> <p>「18年度の進路状況・包括的分析およびケース報告」(4月11日実施、旧3学年発表)</p> <p>「第1回学力テスト分析および今後の指導方針」(7月11日実施、3学年発表)</p> <p>「宿題テスト分析および学習状況」(10月17日実施、1・2学年発表)</p> <p>「第2回学力テスト分析及び志望校について」(11月14日実施、3学年発表)</p> <p>「学力テスト分析および今後の指導方針」(3月5日、1・2学年発表)</p> <p>校内作成学力テストの実施</p> <p>3学年(6教科) 6月実施・・・センター試験レベル。マーク式</p> <p>10月実施・・・千葉大、横浜国大レベル</p> <p>1・2年生(6教科) 1月実施・・・既習範囲内のセンター試験レベル</p> <p>外部講師による校内進路研修会の実施</p> <p>「東大合格のための指導1」(5月23日実施、講師：駿台予備学校)</p> <p>「東大合格のための指導2」(6月20日実施、講師：代々木ゼミナール)</p> <p>「総合学力テストの分析・東大合格の指導3」(9月19日実施、講師：ベネッセ)</p> <p>「総合学力テストの分析・入試の動向や出題」(12月19日実施、講師：ベネッセ)</p> <p>「司法試験、公認会計士試験に関して」(1月30日実施、講師：大原簿記学校)</p> <p>「総合学力テストおよび模試の分析」(3月3日実施、講師：駿台予備学校)</p> <p>「総合学力テストおよび模試の分析」(3月21日実施、講師：ベネッセ)</p> <p>(3) 今年度重点取組</p> <p>組織的補習体制の実施</p> <p>補習回数を昨年度より増加(150講座 160講座)</p> <p>東大など難関大学対象特別補習を実施</p> <p>受講生徒数も昨年度より増加(2,600名 3,200名)</p> <p>予備校サテライン 「数学」「地学」の実施</p> <p>夏季集中英語講座の実施 1年生24名、2年生9名</p>

	<p>東大キャンパスツアーの実施（10月28日実施）  秋山仁先生講演会の実施（11月21日）  東大合格のための校内研修会の実施  「東大合格のための指導1」（5月23日実施、講師：駿台予備校）  「東大合格のための指導2」（6月20日実施、講師：代々木ゼミナール）  「総合学力テストの分析・東大合格の指導3」（9月19日実施、講師：ベネッセ）</p>
立川	<p>65分×5時限授業の実施  週あたり1625分の授業を実施している。これは50分×6時限授業で隔週土曜日に4時限実施する場合と比較しても、2週間あたり50分授業時間が長い。多くの授業時間を確保することで、学習の持続・集中を可能にし、また学習した内容の定着率向上を実現している。65分授業により、総授業時間数を確保してなお授業時数に余裕があり、そこに国語、数学、英語を振り分け、教育課程上の修得単位より実質1/3～2/3単位多い履修を行っている。さらに、1学年の国語、数学、英語では標準単位より各1単位増やし、基礎科目の充実を図っている。</p> <p>国公立大学向けセンター試験に対応した教育課程  5教科7科目型大学入試センター試験に対応するため、2学年で柔軟な文理選択制、3学年で多様な選択科目を設置している。</p> <p>少人数習熟度別授業  1学年の数学（3単位）と3学年のリーディング（4単位）で、標準2クラスと発展1クラスによる少人数習熟度別授業（2クラス3展開）を実施している。</p> <p>補習・講習の実施  土曜日は3学年合計23講座の補習を年18回程度実施している。また、部活動参加者向けに1学年国語は部活動終了後に実施している。夏季休業期間中は主に大学進学を目的とした講習を実施、32日間、のべ9600名の生徒が参加した。</p> <p>自習室の開放  土曜日の午後、講義室を自習室として開放している。午前中に土曜補習を受けた生徒がそのまま快適に校内で自習できる環境整備をしている。</p> <p>進路充実期間の設定  11月を進路充実期間とし、3者面談（1、2学年）進路講演会、大学の出前授業、法曹界の講演、模擬試験等を集中的に行い進路意識の向上を図っている。</p> <p>模試実施と分析結果の共有化・進学指導力、授業力の向上  各学年とも年間実施計画に基づき外部模試を実施。各模試結果を分析し、外部講師を招いて研修会を実施した。校内研修会や職員会議、拡大学年會などで模試分析結果を周知し、生徒情報の共有化を図り、進学指導力や授業力の向上につなげた。</p> <p>生活実態調査の実施  年に1回（秋）自宅学習時間や休日の過ごし方などを1、2学年全体で調査、これらを基礎資料とし、効果的な教科指導や生活指導のあり方を検討している。</p> <p>浪人生・保護者へのサポート・情報提供  浪人生・保護者対象の進学講演会の実施を通じ、浪人生の進学意欲の向上および保護者との連携を図った。</p>
国立	<p><b>授業時数の確保</b>  ・長期休業日の弾力的運用により、年間22回程度、土曜日に授業を行っている。  ・授業時数を確保するために2学期制を実施している。授業の進捗を保障するため各曜日の実授業時数を調整し、所定の授業時数を確保できるように配慮して、定期考査の時期を決定している。</p> <p><b>国立大学受験に対応できる教育課程の編成</b>  ・数学で習熟度別授業、英語で少人数編成授業を行い、生徒の学力向上を図っている。  ・国公立大学受験に対応するため、1・2年生では<b>芸術以外の教科を全て必履修</b>としている。その一方で、3年生では、<b>自由選択科目を多く設定し、演習中心の授業</b>を行っている。</p>

	<p><b>テストの活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部模擬試験を計画に基づき、1、2年生は年2回、3年生は年3回実施し、外部模試の結果や、現在まで蓄積された構内のデータを生徒の学力の定点観測資料として活用し、学習指導、進路指導に生かしている。</li> <li>・長期休業日あけには課題テストを実施して、長期休業中の計画的な学習を援助している。また、学習到達度を把握すると共に、組織として生徒の成績をきめ細かく把握して、学習指導や進路指導に生かしている。</li> </ul> <p><b>補習・講習の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業日当初の1週間程度、午前中を講習優先期間として集中的に講習を実施している。その後は、主に3年生を対象にした講習を実施している。</li> <li>・1年生の希望者に対し、夏季休業日中に2泊3日の「サマーセミナー」を実施している。</li> <li>・平常時の補習は、必要に応じて実施している。3年生には、個別の小論文指導や添削指導等を行っており、特にセンター試験後は、個別指導や少人数指導を行っている。</li> <li>・年4回の定期考査前、それぞれ5日間程度、後援会やPTAの支援を得て、卒業生による「サポートティーチャー」を実施している。</li> </ul> <p><b>授業力向上の取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学指導研究協議会等へ参加し、また、校内においても外部講師を招いて研修会を行い、進学指導についての研修を積む。</li> <li>・本校を会場とする指導向上のための研修会を積極的に開催し、指導力向上に努めている。</li> <li>・大学受験指導等について積極的に研修するとともに、外部教育機関からの評価も活用し、進学指導の実践力を高める。</li> <li>・生徒による授業評価アンケート結果に基づき、教員の授業改善を推進している。学校運営連絡評議会において、協議委員の授業視察や保護者、生徒へのアンケートを行い、授業への関心を高める共に授業改善の契機としている。</li> </ul>
--	---

### 進学指導特別推進校

学校名	取組内容
小山台	<p>校内研修：進路分析会、模試分析会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導に関する校内研修会を年2回、5月と10月に実施した。</li> </ul> <p>進路分析は、近年3年間の校内成績や模試の成績を基に前年度の生徒の進路動向を検討するために実施している。これらの分析結果を踏まえて、各学年の進路指導の方向性の検討や各学年担任の生徒への個人面談などの進路指導を実施し、成果を上げている。</p> <p>模試分析会は外部模試等で3年間を通して定点を設定し、主に国・数・英の各学年生徒の学力の変化を定点観測している。これにより、他の有数進学校と比較して各学年の生徒の学力を分析し、また各学年生徒の弱点分野などを検討し、各教科の授業の指導改善に生かしている。</p> <p><b>勉強合宿</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一昨年度より学年対応で実施を始めたが、今年度より進路指導部が中心となり、計画的に実施することとした。実施時期は冬季休業中に決定し、2泊3日で実施している。対象学年は主に2学年とし、受験に対する取組をスタートさせるきっかけを与える目的で実施した。意識の高い生徒が参加し、実績を上げている。次年度に向けて、進路指導部で内容の充実を検討しており、次年度より更に充実した合宿を実施する。</li> </ul> <p><b>土曜授業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「長期休業日等の弾力的運用試行校」に指定され、夏季や冬季の始期や終期を変更するとともに、年間23回の土曜授業を実施している。土曜授業を実施したことにより、年間80時間以上の授業時間を確保するとともに、土曜日の午後を利用して、小論文講習や各教科の補習・講習を実施している。</li> </ul>

駒場	<p><b>教育課程の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度より隔週土曜日授業、及び国公立・私立難関大学対応カリキュラムにより授業の充実、授業時間数の増加を図り、また、指導内容・方法の改善による学力向上も図っている。</li> <li>・2学年において、数学（6単位）・英語W（2単位）に加え、古典（3単位）も次年度から習熟度別授業として展開するとともに、生徒の実態にきめ細かく対応した有意義な授業とするため、学習内容・進捗・テスト・評価などの工夫・検討を各教科で行っている。</li> </ul> <p><b>補習・講習の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業中、期末試験後、センター入試直前などには組織的に補習・講習を実施し、<b>夏季休業中は618時間実施し延べ1690名の生徒が参加した。</b>放課後は個別に補習を実施</li> <li>・新規に、大学受験に対応した発展的な学力向上を目指す<b>国・数・英3教科のサテライト講習を、教員が説明し質問に答える講習形式と個別のDVD方式で実施し延べ212名の生徒が受講した。</b>入試問題の出題傾向分析を踏まえた予備校の講義を活用し、発展的な学力向上を図っている。</li> </ul> <p><b>組織的な進路指導体制の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営計画に則し3年間を見通した緻密な「<b>進路指導計画</b>」を作成し、各学年が各時期に取り組み目指す<b>進路指導</b>を系統的に明示し、系統的な進路指導に組織的に取り組みやすくした。</li> <li>・指定校推薦の在り方などの規定を策定し<b>高きに挑戦する指導</b>を組織的に行えるようにした。</li> </ul> <p><b>進路指導の1年間前倒し 早期進路意識の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生による<b>合格体験講話</b>を3学年のみでなく2学年にも実施し、「<b>進路ガイダンス</b>」も3学年のみでなく全学年に拡充し、進路指導の前倒しによる早期進路意識の育成を始めた。</li> </ul> <p><b>自習体制の充実・整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東大生が自習室で生徒の主体的な学習をサポートし<b>発展的な学力の伸長を図るサポートティーチャー制</b>をPTA支援のもと導入し、生徒の質問への対応と、勉強方法の改善に役立っている。</li> </ul> <p><b>校内研修などによる教員の指導力の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校生徒の「<b>全国模試結果</b>」や、昨年度から定点観測として年2回実施の「<b>全学年対象の生活・学習時間アンケート</b>」について、分析・研修を職員会議で行い、生徒の学習・生活の状況と課題の共有化を図るとともに、指導の在り方を検討し、指導力向上に役立っている。</li> <li>・生徒の学習についての<b>サポートティーチャーの助言</b>を教員に還元し指導力向上に活用している。</li> </ul> <p><b>知的探求心の育成の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丸暗記による得点でなく、探求心をもって行う興味・理解の伴った学習こそが真の学力をはぐくむ。大学教授を招き「<b>知るを楽しむ講座</b>」を実施し生徒の<b>知的探求心の育成</b>を図っている。</li> </ul>
新宿	<p><b>単位制度を活用した教育課程の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6教科7科目のセンター試験に対応できる教育課程を編成し、国語・数学・英語については、2年次終了時にセンター試験対応力を習得させている。</li> <li>・1、2年次で各教科は「<b>学習サイクル</b>」に基づき、自宅学習時間「<b>学年数+1~2時間</b>」を指導し、「<b>基礎力・総合力</b>」を身につけさせている。</li> <li>・古文・数学・英語・理科で<b>習熟度別授業</b>を実施し、きめ細かな学習指導を実施している。</li> <li>・「<b>特別講座</b>」を「<b>演習科目</b>」「<b>発展科目</b>」で20講座設定し、進学に直結した指導を行い、「<b>基礎力</b>」とともに「<b>総合力・応用力</b>」を習得させている。</li> <li>・土曜日授業を年間27回程度実施し、学習リズムをつくっている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学直後に1年次生対象の「 세미나 - 合宿」(1泊2日)を実施し、基本的な生活習慣および学習習慣の確立に向け指導し、学習習慣定着に効果を出している。</li> <li>・1年次に「国公立クラス」(2クラス)を設置し、進学意識の向上を図っている。</li> </ul> <p><b>新宿高校進路指導システム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「進路指導部・学年合同の定期考査、模試結果およびセンター入試分析」による定点分析、「年間3回の個別学習・進路ガイダンス」から成る『新宿高校進路指導システム』を実施する。各教科は分析結果に基づき弱点補強の具体的対策をたて、効果的に作用している。</li> </ul> <p><b>授業改革の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒による授業評価」結果をふまえた校内研修を実施し、「分かりやすい授業」から「学ぶ意欲・知的好奇心のわく授業」への改革を推進している。また、教員相互の授業参観を実施し、授業研修へつなげている。</li> </ul> <p><b>学習サポート体制</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2年次に勉強合宿(各2泊3日)を実施し、基本的な学習習慣の確立を図っている。</li> <li>・自習室の夜8時までの開放、図書館の開館日数を最大限確保(保護者による図書館ボランティアの効果的活用)を通し、自学自習の場を提供している。</li> <li>・大学ごとのキャンパス訪問ツアーにより進路意識の啓発を行っている。</li> </ul> <p><b>生徒募集対策の一層の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自校作成問題」の工夫により、国語・数学・英語にバランスのとれた学力の高い生徒を集める。(含 年2回の自校作成問題説明会)</li> <li>・全教員による中学校訪問及び訪問授業・体験授業を実施し中学校との連携している。</li> </ul>
町田	<p>(1) 教育課程の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二学期制・45分7時間授業にすることにより、授業時間を確保し、授業計画を工夫し、その利点を最大限に発揮できるようにしている。</li> <li>・年度当初1学年にスタディガイダンス並びにスタディサポートの授業を、2学年にはスタディサポートの授業を実施する。</li> </ul> <p>(2) 補習・補講の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝・放課後及び土曜日と日曜日を活用し、各学年・各教科で補習・補講を実施する。</li> <li>・長期休業中も計画的に補習・補講を実施する。特に1学年には夏の勉強合宿を実施し、同時期2・3学年には集中的に夏期講習会を実施する。</li> </ul> <p>(3) 進路指導体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路部に学校全体の進路指導のイニシアチブを執らせ、組織として体系的・計画的な指導に取り組む。補習・補講の企画・管理、高大連携授業の取りまとめに取り組ませていく。また、それらの情報を蓄積させることにより、中長期的な視野で学校運営に参画させていく。</li> </ul> <p>(4) 進学指導特別推進校としての取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学指導特別推進校の指定を受け、学校全体、学年、各ホームルーム等で進学に対する意識づけを一層強く行い、センター試験7科目受験者数の増加、得点率向上、自己採点はもとより、受験を国公立後期までやり遂げさせる指導を行う。</li> <li>・センター試験の大問別得点集計や得点集計を自己採点日に行い、結果を即日公表するとともに、後日結果の分析を行う。また、実力テストの結果を会議で周知し、結果の分析を行う。</li> </ul>
国分寺	<p><b>教育課程</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別授業や少人数授業、多様な選択科目を備えた教育課程を整え、面談等きめ細かな指導により、生徒の個に応じた教育の徹底に努めた。</li> <li>・長期休業日等の弾力的な運用の試行校として、土曜日授業を実施して一週間の学習活動の効率を高めるとともに、授業時間を確保し学力向上を図った。</li> <li>・年間授業計画および生活実態調査の様式を変更し、生徒が定期考査および実力テストを中心にした計画的な学習を行うよう指導を徹底した。</li> </ul>

#### **生徒や保護者等へのPR**

・ホームページや年2回の学校説明会、年4回の学校公開等の機会を利用して、本校の教育実践を積極的に発信した。

#### **教員の指導力向上**

・**学習指導委員会**を中心に生徒の学習状況を分析し、国語、地歴・公民、数学、理科、英語の授業研究、校内研修を定着させた。

・実力テストの結果を分析し、生徒の学力の全国的水準の維持、向上を図るため、指導力向上のための**校内研修**を実施した。

・生徒による授業評価および学校運営連絡協議会による**学校評価・授業評価**を活用し、教育活動の改善を図った。

#### **講習及び補習**

・長期休業期間前および期間中の補習・講習を3年生中心に、全学年で**総計138講座**実施した。

・3年生中心に実施していた**サテライト講座**を1、2年生にも拡大し、講座内容の充実を図った。

・**朝講習**の拡充を図るとともに、下校時間後の学習環境整備の希望に応え午後6時まで自習室の開放を実施した。

#### **進学個別面談**

・年間5回の定期考査の成績表を新しい**学籍管理システム**を活用して、生徒の成績の推移が見やすいものに工夫、改善を図った。また、生徒一人一人の入学時から卒業に至るまでの**学力推移データ**を集積して、進学指導に活用するための資料づくりを推進した。

・生徒の学習実態把握のための**生活実態調査**を年5回実施して生徒理解を深めるとともに、担任が面接等に活用する資料とした。各学年で、全生徒を対象に**年2回以上**の進路及び学習に関する**個人面談**を実施した。また、年に1回は三者面談の機会を設けた。

#### **その他の進学指導**

・国語科を軸にして、各教科で推薦図書を提示し、1年次から3年次まで、それぞれの年次に応じた目標を定め、報告等の課題を設定して読書を奨励し、読解力や表現力を育成した。

(2) 豊かな人間性や社会性をはぐくむ取組

進学実績の向上を図るとともに、知・徳・体のバランスの取れた人間形成を目指しており、生徒の豊かな人間性や社会性をはぐくむための、特色ある活動について記載した。

進学指導重点校7校と進学指導特別推進校5校の取組に共通していることは、受験指導だけに偏ることなく、学校行事や部活動など特別活動も重視していることである。

また、生活指導や教育相談により、基本的な生活習慣、規範意識を育成しながら、精神面で支えていく指導を行っている。さらに、各学校の持つ長い歴史と伝統を生かし、各界で活躍する卒業生や同窓会の協力を得ながら、講演会や懇談会を数多く設定することで、進路や学習に対する意識を高めるとともに、進路選択能力の育成を図っている。

進学指導重点校

学校名	取組内容
日比谷	<p><b>奉仕活動の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会貢献を行う能力を育て、積極的な社会参加の姿勢を養うことを目的として、「奉仕」の理念と実際を学び、奉仕体験活動を実施した。</li> </ul> <p><b>「星陵セミナー」の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生を対象に、キャリア教育及び「総合的な学習の時間」の一貫としての進路探究学習「星陵セミナー ～ようこそ先輩～」を実施している。</li> </ul> <p>「星陵セミナー」は、生徒にとって学校は深い知識と考える力を楽しむ場であるとの認識にたち、日比谷高校の知的財産である先輩方の専門の力が現役生徒の生きる力に示唆を与える場になるとしてはじまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・史学、文学、法学、政治、経済の人文系から理学、工学、医学、薬学などの理系の講師21名が、10～20名の生徒を対象に、ゼミ形式で2時間半を担当している。</li> </ul> <p><b>学問の面白さを味わう機会として有効な時間である。</b></p> <p>各分野の最先端で活躍している先輩方の講義を受け、直接質問することができるため、生徒は知的な面で一段飛躍するきっかけをつかみ、3年生の受験勉強に向かって良いスタートをきることができる。</p> <p><b>生活指導の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣、規範意識、授業規律を確立させることが、学力向上の基盤である。人としてのマナーを心得た態度や行動が自然にとれ、明るく、すがすがしく、生き生きとした生徒の人格、品性を涵養<sup>かんよう</sup>するよう、教科指導、部活動、学校行事を通して、進学校としての生活指導に教職員全員であたっている。</li> </ul> <p><b>勉学と部活動との両立に向けた取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動と学習の両立を図るため、土日のどちらかとウィークデイの5日間のうち1日は部活動の休止日を設けている。生活に折り目切り目をつけ、学習への切り替えの習慣をつけさせ、学習時間を確保することにねらいがある。</li> </ul> <p><b>保健指導</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の健康について生徒自らが考え行動する力を養わせるため、地域の医師や関係機関との連携し相談日を設けたり、生徒と教職員を対象にした講演会を実施して、健康で規則正しい生活を通して自己実現を図れるよう指導している。</li> </ul>
戸山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を大切にし、チャイム着席を励行する。遅刻防止のためきめ細かい指導を行った。</li> <li>・部活動、学校行事等の課外活動の意義を十分踏まえ、予算・人的措置等の面で生徒の活動を支援するよう最大限の努力をした。</li> <li>・土曜日・長期休業日に行う補習・補講・自習支援事業・講演会などの実施方法を改善工夫し、参加率向上を図った。</li> <li>・「進路指導部だより」を定期的(計36通)に刊行し、適切な進路指導を実践するように努めた。進路相談室の常時開室を実施し、多くの生徒の進路相談を实践した。</li> </ul>

西	<p><b>文武二道による人間性の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の90%が部活動に所属する<b>部活動推進指定校</b>として、メリハリやけじめのある活動を通して、学習と部活動の両方に取り組み、その結果として高い集中力と強い意志を持って<b>団体戦で進路実現</b>を果たしていく生徒集団の育成に努めた。</li> <li>・運動会、夏季・冬季クラスマッチ、記念祭などは、生徒の実行委員会に企画運営させ、集団で共通の目標に向かって努力する体験を通して、達成感や成就感を味わわせ、調和のとれた人間性の育成に努めた。</li> </ul> <p><b>ルールではなくマナーとしての生活指導</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主自律の芽を摘み取るのではなく、「待つことや見守ること」を大切にしながらも、教員による朝の交通安全指導、遅刻防止を視野に入れた校門での指導、盗難防止や不審者侵入に備えた授業中の校内巡回、年間3回の遅刻指導月間、生徒会を中心とした西高生活見直し月間を実施した。</li> <li>・ルール化されてしまうのではなく、マナーとしてとどめておくことの意義を全校集会やリーダー研修会等で投げかけ、自律した生活を送ることの大切さを説いている。</li> </ul> <p><b>卒業生によるキャリアガイダンス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学教授による<b>訪問講義</b>：希望者を対象に年4回、土曜日の午後に実施し、研究分野の内容や進路選択の方法等について話を聴き、質疑応答を通して進路選択の一助とした。</li> <li>・<b>パネルディスカッション</b>：社会のさまざまな分野で働く卒業生5名によるパネルディスカッションを1年生全員対象にして実施した。どのような仕事内容か、西高時代の高校生活、進路選択のあり方等について話を聴き、質疑応答を行った。</li> <li>・<b>進路ガイダンス</b>：さまざまな分野の大学生を講師として迎え、2年生を対象に、大学での勉強・生活の様子を聴き、大学や専攻分野選択の一助とした。</li> </ul>
八王子東	<p>大学入学後・大学卒業後を見据えたキャリア教育</p> <p>「総合的な学習の時間」に実施している進路学習・小論文指導と融合させ、「生徒のやる気」を向上させ、また進路選択の幅を広げるための機会として、大学の教員・職員、卒業生による進路講演会を拡充させた。具体的には次の4つである。</p> <p>大学の教員・職員による「大学での学び」についての講演</p> <p>本校の場合、職業 学問 大学という進路指導の流れを直線的に進めるのではなく、「学ぶことが生きる力につながる」というスタンスでの進路指導を心がけている。そのため、大学で学ぶことが21世紀社会の抱える課題解決にどのように結びついていくかを中心に、具体例を挙げながら講演していただいた。</p> <p>「社会で活躍する」卒業生による講演</p> <p>生徒一人一人に社会とのつながりを考えさせる機会として講演していただいた。若い卒業生という身近な社会人の生の声を聞くことで、大学で学んだこと、高校で学んだことが「生きる力」になることを実感したようである。また、「自分はどうか生きるか」という次元まで考えさせる内容であった。</p> <p>先輩大学生による「大学での学び」についての講演</p> <p>どのような観点で大学を選択し、実際に「大学での学び」で何を感じたかを講演していただいた。大学では「自立心」をもって学ぶことが要求されることを知り、「自ら進んで学習する姿勢」をもつという観点で効果があった。</p> <p>先輩大学生による「進路選択」についての講演。</p> <p>卒業後の進路の決まった大学4年生に、どのような観点で大学卒業後の「職業」「進学」を選択したかを講演していただいた。4年間で大きく成長した先輩の姿を体感し、また、大学入学後に視野が広がり入学当初とは異なる職業選択をする場合でも、「問題意識をもって幅広く学ぶ」ことで乗り切ることができた話を聞いて、学習行動に結びつけた生徒もいると考える。</p> <p>部活動生への支援</p> <p>学習に励みつつ、部活動との両立を目指す生徒を部活顧問が精一杯支援することで、生徒の「夢」の実現を図る体制を構築し、「部活保護者会」を実施した。</p> <p>時期としては6月、1月の2回である。</p>

	<p>内容としては進路部による講演と卒業生の体験談が柱である。6月は、入学後初めての定期考査を終えた1年生と、部活・学校行事の中心として忙しくなる2年生に対して、授業の受け方、家庭学習の在り方などについてのテーマが中心である。また、1月は、1年間の学習を振り返らせると同時にこれからの学習スケジュールの確認についてである。</p> <p>1. 2年生が保護者と一緒に同じ話を聞くことで、生徒と保護者間、生徒同士の学年を超えたコミュニケーションの構築にも役立っている。</p> <p>部活動の活動の関係で参加できない部活動生もあり、また、保護者からも複数の開催を求めるアンケート結果もある。学習と部活動の両立をきちんとやり遂げる生徒を育成することで「活力のある進学指導重点校」として、生徒・保護者・地域の信頼を大きく獲得することができるので、このイベントはさらに充実・発展させていきたい。</p> <p>生徒の自発的な実行委員会による学校行事の運営</p> <p>2月に実施する合唱祭の運営母体は有志による実行委員会である。9月に行う文化祭の後、有志による実行委員長が発起人となり、合唱祭の有志実行委員を募る。クラスごとに有志の実行委員が決定すると、課題曲の選定及びクラスごとの自由曲を調整する。各クラスでは課題曲と自由曲を実施日までの運営計画をもとに、クラスの実行委員を中心にコミュニケーションを重ねて詩の理解を深めながら作り上げていく。このような過程で生徒は積極的に人と人との結びつきを深め、一人一人の個性を理解し合うと共に協力して課題を解決する手だてや態度を学ぶ。この例のように本校では学校行事を通して社会性をはぐくみ、自主的で積極的な学校生活を送ることができるよう指導している。</p>
<p>青山</p>	<p>生徒の豊かな人間性や社会性をはぐくむための活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会参加」(奉仕)の意味に関するオリエンテーション(5月10日実施)</li> <li>・パネルディスカッション「身近なボランティア活動について」(5月25日実施)</li> <li>・防災館での応急救護訓練(6月9日実施)</li> <li>・青山スポーツ祭りで地域ボランティア活動(9月15日・16日実施)</li> <li>・富士山環境保全事前学習「富士山クラブとの連携」(10月23日実施)</li> <li>・富士山清掃活動及び野草の採種、自然活動の講演(富士山ナショナルトラストとの連携) 自然環境に関する討論会(10月25日、26日実施)</li> </ul> <p>相互理解能力(コミュニケーション能力)の伸長を期した取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス討論を中心とした討論合宿(青山セミナー)(10月25日~27日実施)</li> </ul> <p>予め図書館などで資料を集め、ディベートを実施した。二泊三日の討論合宿では社会的なテーマから自由なテーマまで幅広く討論された。最終日にはプレゼンテーションがあった。</p> <p>望ましい勤労観・職業観や進路選択能力等を育成するキャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生対象に進路ガイダンスの実施(4月11日実施)</li> <li>・卒業生による進路ガイダンス(9月10日実施) 生徒の職業観を涵養した。</li> </ul>
<p>立川</p>	<p>自主・自律を育てる学校行事・部活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会所有「清明寮」(千葉県館山市)で昭和27年から続く臨海教室(3泊4日)では、教員や卒業生からの遠泳指導や生活指導を通して、困難に打ち克つ心、生活を自ら律する心を学んでいる。</li> <li>・新入生歓迎会、合唱祭、演劇コンクールなどの学校行事では、組織作り、企画立案から当日の運営まですべて生徒たちで行うことを通して「自主・自律」の心を養っている。</li> <li>・部活動加入率も90%を超え、毎年いずれかの部活で関東大会出場を果たすなどスポーツ・文化活動を高いレベルで行い、心身を鍛えている。</li> </ul> <p>学校設定教科科目「奉仕」での地域との連携・協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動センターたちかわ、都立武蔵台養護学校、都立羽村養護学校等の協力を得て、地域で奉仕体験活動を実施する。また、地域の中学生を対象にスポーツ・文化活動体験会の実施など、地域との関わりの中で奉仕の心を学んだ。</li> </ul>

	<p>進路を学ぶ「総合的な学習の時間」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年は「自分探しの旅」、2学年は「進路発見の旅」、3学年を「進路実現の旅」をメインテーマに実施している。特に、進路講演会（1、2学年）やワークシートの完成（1学年）4000字論文発表会と論文の冊子化（2学年）など、学年に応じた取組を実施し、進路意識の啓発に努めている。</li> <li>・同窓会の協力を得て、教育・研究・産業・医学・行政などの分野で活躍する卒業生による仕事解説・職業観・後輩へのメッセージなどを冊子「先輩からの手紙」にまとめ、生徒全員に配布し、生徒の望ましい勤労観・職業観や進路選択能力の育成に努めている。</li> </ul> <p>同窓会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業中には臨海教室（1年生全員参加）を同窓会所有「清明寮」（千葉県館山市）で、また冬季休業中にはスキー教室（任意参加）を同窓会所有「神城山荘」（長野県白馬村）で実施している。実技指導は卒業生がアシスト、先輩と共に汗を流す交流を通じ豊かな人間性や望ましい社会性を養っている。</li> <li>・同窓会の協力を得て、1学年「総合的な学習の時間」で、行政・研究・産業界など社会の第一線で活躍する先輩の講演会を実施し、望ましい勤労観・職業観や進路選択能力の育成に努めている。</li> </ul>
<p>国立</p>	<p><b>学校行事の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習との兼ね合いに留意し、豊かな人間性を育み文化の気風を高めるため、<b>3年生の全クラス演劇を中心とする文化祭や500名近くの生徒が合唱に参加する第九演奏会</b>などの文化行事を行っている。</li> <li>・気力や体力、コミュニケーション能力を高めるため、<b>1・2年生が中心となる体育祭</b>において、1年生の9割以上が参加して応援の演技を披露している。これは、2年生有志がリードし、1年生をまとめて動きや全体構成を教え、9月の体育祭に向けて、5月ごろから、時間の合間を見つけて、献身的に指導して、感動的な作品を作り上げている。</li> </ul> <p><b>部活動を通じた中学校との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の社会性を育てるため、部活動の一環として、運動系部活動による中学生への運動技術指導や音楽系活動による中学校への出張演奏等を実施している。</li> </ul> <p><b>地域との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で実施するイベントに、吹奏楽部やチアリーディング部が出演し、地域との連携を深めている。また、教科「奉仕」の一環として、大学通りや学校周辺の美化に努めている。</li> </ul> <p><b>キャリア教育の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学に合格するだけでなく、将来の職業選択に結びつくよう、<b>本校卒業生が生徒に学部学科の内容等の情報を伝える「進路アドバイスの会」</b>を後援会の支援を得て実施している。</li> <li>・将来の職業生活を考える一助とするため、<b>大学や企業等社会の第一線で活躍している本校卒業生の話を聞く進路講演会</b>を、同窓会と後援会の支援を得て実施している。</li> </ul>

進学指導特別推進校

学校名	取組内容
小山台	<p>行事の充実と伝統の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>合唱コンクールの実施 毎年6月に日比谷公会堂で実施している。1～3年の全クラスが参加し、課題曲の校歌と自由曲の2曲を合唱する。学習との両立のため、短期集中で取り組ませ、準備期間は約1週間である。本校の伝統行事の1つで3年生の合唱のレベルは高い。保護者の参加者も年々増加し、平成19年度は849人であった。</li> <li>運動会の実施 毎年9月に実施している。午前8時の時報とともに始まり、午後3時30分にほぼ時間どおりに終わる。運動会の運営、審判、応援などすべて生徒が主体で行うことが伝統となっている。種目なども数十年変えていないものも数多くある。本校の一番大きな伝統的な行事であり、最後に全員で肩を組んで校歌を合唱して終わる。保護者の関心も高く平成19年度は1106人が参加した。これら伝統的な行事を経ることにより、生徒、保護者の本校への帰属意識や本校への満足度は非常に高くなる。</li> </ul> <p>社会人によるキャリア教育講演会の実施 土曜日の午後などを使って、年間12回実施した。これは、各分野の社会人を招聘し、各専門分野の仕事の内容やその分野を選んだ理由、高校や大学での学習について講演をお願いしている。参加した生徒のみでなく、保護者や学校運営連絡協議会の協議委員からも高い評価を得ている。自由参加であるが、2学年生徒の95%が年間1回以上の講演会に参加した。参加した生徒の感想文をみると、仕事に対する意識の向上が見られ、大きな成果を上げている。</p> <p>高大連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理科講義実験の実施 化学で実施していたが、今年度より物理、化学、生物の各分野で実施するように拡大改善した。これは、大学の教員に大学レベルの実験とそれに関連する講義を行ってもらうもので、理系の生徒の意識の向上に大きく役立っている。</li> <li>学問の面白さ体験講座の実施 1学期と2学期に各1回ずつ、2学年の生徒が全員参加して実施した。大学教員を延べ13人招聘し、専門分野の解説と出前授業を実施した。</li> </ul>
駒場	<p><b>バランスある文武両道・・・下校時刻など校則遵守の指導</b></p> <p>文武ともにバランスある両立により、生徒は知的に、精神的に、身体的に豊かに大きく成長を遂げることができる。そのためには、生徒が学習習慣・生活習慣の確立、家庭学習時間の確保、疲労回復と心身の健康と安全の確保をしながら、文武両道が実現できるように、学校として責任ある指導を行うことが必要である。</p> <p>延刻であっても午後6時30分の下校時刻などの校則を遵守させることとし、授業規律、生活規律などの指導も伴って、家庭学習時間は2.2倍以上に増加し、この2年間で、現役国公立大学合格者数などは1.5倍以上に伸び、部活動参加生徒数も98.3%と大幅に伸び、全国大会への進出も今年度95名と大幅に増加し、生徒はバランスある文武両道に懸命に励み、学力、人間性ともに大きく成長している。</p> <p><b>自律の態度、規律性、人間性の醸成</b></p> <p>勉学を本分とし、学校生活における生活習慣の確立と高い規範意識をもった自律の態度など、文武両道のリーダー的資質をしっかりと身に付けられる学校を目指している。ハイレベルの学習と活発な部活動、学校行事などで養われる、豊かで規律ある学校生活により、人間的な成長を促す。</p> <p><b>通学時マナー、遅刻状況などの改善</b></p> <p>食べ歩きなど通学時のマナー、授業規律、生活規律などについて、企画調整会議、職員会議で、遅刻状況や清掃状況の調査結果の共有化、課題の明確化を図り、生徒会の協力も得て、大きく改善している。苦情も激減した。</p>

	<p><b>学校に誇りをもち標準服を愛着をもって着用する呼びかけ</b>  生徒が本校に誇りをもち、標準服を3年間愛着をもって着用するよう、今年度の1学年から、入学時に保護者・生徒に、「愛着をもって着用する」呼びかけを始めた。</p> <p><b>清掃指導</b>  ・校舎内を常に清潔にし、よい学習環境を保つことは重要なことである。清掃当番を果たしてから部活動を行う指導が生徒に浸透し、この2年間の清掃状況の改善は大きい。  ・今年度は、2学年全員が順番で行う全クラスのゴミ出しチェック、教室の清掃状況チェックなどにより、学校全体の清掃への自覚を高めた。</p> <p><b>奉仕活動によるコミュニケーション能力の育成</b>  ・1学年「奉仕」では、生徒一人一人に即した充実した活動とまとめ・発表・自己評価とし、社会性、コミュニケーション能力、課題解決能力をそれぞれに得ているようである。</p>
新宿	<p><b>真の文武両道の確立</b>  ・学習（自宅学習学年数＋1～2時間を含む）と部活動・行事の両立、すなわち「集中と切り替え」を日常のHRおよび学年指導の中で徹底している。  ・学習と部活動の両立による相乗効果を目指し、「部活動合同保護者会」を年2回実施し、うち1回は生徒にも参加させている。  ・担任 部活動顧問間の情報共有化を図り、一体化した指導を行うため“GOOD JOB CARD”を導入し、活用している。  ・教員に他府県の文武両道先進校視察を行わせ、校内研修で還元するとともに、教訓となる事例（「入学時の偏差値を下げない指導」「宿題の出し方」など）を学校経営の方針に取り入れている。</p> <p><b>自律的生活習慣育成の指導の重視</b>  ・「登下校などの時間厳守、礼節、挨拶、清掃、集会マナー、人の話を聞く、メモをとる、授業規律」などの規律指導を組織的に展開し、「けじめある生活」を指導している。  ・「安全教育」「保健指導」などを通して、自己管理能力を育成している。  ・教科「奉仕」の実践、生徒会を中心とする地域の「クリーンアップ活動」「あいさつ運動」を通し社会の一員としての規範意識を育成している</p> <p><b>キャリアガイダンス</b>  「社会で活躍している卒業生の講演」「合格体験を聞く会」を主催するとともに、秋のオープンキャンパスへの1、2年次生の積極的な参加を通じて、勤労観・職業観の育成とともに自己の生き方・在り方を考察させている。</p>
町田	<p><b>特別教育活動・部活動の充実</b>  ・生徒部に特別教育活動や部活動の充実を取り組ませ、生徒の自主自律の精神を育成していく。そしてその指導を、生徒の進路意識の啓発につなげていく。  ・文化祭や合唱祭、体育祭が非常に盛んであり、その活動を通して自主性や協働の喜び、達成感などを学ばせ、学習だけでなくバランスの取れた人間の育成を行う。  ・1、2年次にコミュニケーションテストを実施したり、授業でプレゼンテーションや発表、ディベートなどを取り入れたりして、コミュニケーションに関する実践的能力の向上に努める。  ・職業講話や進路講演会や高大連携授業を行い、進路選択能力や望ましい勤労観・職業観の育成を行う。  ・始業前の遅刻指導を各ホームルームで行い、また、下校の際の安全指導を地域の道路に立って行い、生徒の社会性や人間性の育成に努める。  ・地域の子供に呼びかけた「子ども会」を実施したり、地域が主催する行事に生徒会や部活動が参加したりして地域との交流を積極的に行い、生徒の豊かな人間性の育成に努める。</p>

国分寺	<p><b>木もれ陽祭の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月第2週を木もれ陽祭（合唱祭、文化祭、体育祭を連続して実施）とし、第1週の放課後をそのための準備に当てることで、<b>短期間に集中</b>させて内容の充実を図った。</li> </ul> <p><b>部活動の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心身の健康や体力の増進に対する関心を高め、<b>部活動の充実</b>を図り、学習との調和の取れた生活づくりを推進した。</li> </ul> <p><b>地域と連携した奉仕体験活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒会や部活動を中心とした<b>ボランティア活動の充実</b>を図った。また、1年次生については、国分寺市内の小学校および市役所と連携した奉仕体験活動を実施した。</li> </ul> <p><b>キャリア教育の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高い進路の目標を持たせるため、1年次には総合的な学習の時間でのキャリアガイダンスに続いて進路遠足で大学を訪問させた。2年次にはオープンキャンパスへの参加と大学教授を招いての進路講演会を行って学問への関心を高めさせた。継続した進路指導を通して、生徒に<b>進路を達成</b>するための中・<b>長期的な学習計画</b>を立てさせ、日々の授業や自宅学習において、着実にやり遂げる力を身につけさせるよう努めた。</li> </ul> <p><b>国際理解教育の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オーストラリア・サウスオーストラリア州マリオン市ハレットコープ校などとの交流や日中21世紀交流事業を通して<b>国際理解教育の充実</b>を図った。</li> </ul> <p><b>環境教育の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>環境問題への意識</b>を高め、校内美化やゴミの分別など身近な活動に参加する実践的態度の育成を図った。</li> </ul>
-----	--

### 第3章 今後の取組

進学指導重点校・進学指導特別推進校では、指定後、生徒の進路希望を実現できるよう組織的に計画的な進学指導を推進し、指導内容及び指導方法の工夫・改善や、実践的な研究開発を行ってきた。(第2章「2 取組状況」参照)

さらに、進学指導を充実・発展させるため、指定期間6年間を見通した中長期の目標を明確にした。

#### 1 中長期の目標・取組

##### 進学指導重点校

学校名	年度	数値目標	取組目標
日比谷	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難関国公立大学及び医学部医学科現役合格者 35人以上</li> <li>・国公立大学現役合格者 100人以上</li> <li>・難関3私立大学現役合格者 190人以上</li> <li>・センター試験5教科の各教科得点率80%以上の者延べ700名以上</li> <li>・大学現役進学率 60%程度維持</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・45分連続90分授業を一層充実する。</li> <li>・校内実力テスト、校外模試の定期的・経年比較の活用に基づく定点観測を通じた目標管理型の進路指導を充実する。</li> <li>・土曜日及び長期休業日の講習を組織的・計画的に実施する。</li> </ul>
	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難関国公立大学及び医学部医学科現役合格者 40人以上</li> <li>・国公立大学の現役合格者 110人以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSH事業の主旨を生かし、理数教科で想像力をはぐくむ授業力向上に一層努める。</li> <li>・授業改善や土曜講習及び長期休業日の講習を一層充実させる。</li> <li>・進学指導重点校として、ハード面とソフト面の教育環境整備を充実させる。</li> </ul>
	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難関3私立大学現役合格者 200人以上</li> <li>・センター試験5教科の各教科得点率80%以上の者延べ820名以上</li> <li>・大学現役進学率 60%程度維持</li> </ul>	
	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難関国公立大学及び医学部医学科現役合格者 60人以上 (うち、東大30人程度)</li> <li>・国公立大学の現役合格者 120人以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本質的な学力を伸ばさせる授業を実施する。</li> <li>・計画的・組織的な定点観測、系統的な進路調査及び個別指導を一層充実させる。</li> <li>・進学指導重点校として、ハード面とソフト面の教育環境整備の充実</li> </ul>
	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難関3私立大学現役合格者 220人以上</li> <li>・センター試験5教科の各教科得点率80%以上者延べ850名以上</li> <li>・大学現役進学率 60%程度維持</li> </ul>	
戸山	20	国公立大学(現浪合計) 130名 (東大、東工大、一橋大、京大30名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏期講習:延べ500講座、7,500人受講</li> <li>・知の総合化を目指し、クロスカリキュラムを試行、研究授業を10回実施</li> <li>・2,3学年で進路保護者会を実施</li> </ul>
	21	国公立大学(現浪合計) 135名 (東大、東工大、一橋大、京大35名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏期講習:延べ525講座、8,000人の受講</li> <li>・知の総合化を発展させたクロスカリキュラムを実施、研究授業を15回実施</li> <li>・全学年で進路保護者会を実施</li> </ul>

	2 2	国公立大学（現浪合計） 140 名 （東大、東工大、一橋大、京大 40 名）	・夏期講習：延べ 550 講座、8,500 人の受講 ・クロスカリキュラムを充実させ、知の総合化を推進、研究授業は 20 回実施。 ・全学年で進路保護者会を実施
	2 3	国公立大学（現浪合計） 145 名 （東大、東工大、一橋大、京大 45 名）	・夏期講習：延べ 575 講座、9,000 人の受講 ・知の総合化を充実させるため、30 回の研究授業を実施 ・全学年で進路保護者会を実施
	2 4	国公立大学（現浪合計） 150 名 （東大、東工大、一橋大、京大 50 名）	・夏期講習：延べ 600 講座、9,500 人の受講 ・更なる知の総合化を目指し、全教員による研究授業を実施 ・全学年で進路保護者会を実施
西	2 0	・生徒の授業満足度 80% ・大学入試センター試験・6 教科 13 科目の本校平均点 全国平均点を合計 230 点上回る	・校内研修等による授業の充実 ・現教育課程の検証と新教育課程（3 年間シラバス）の検討 ・学習支援体制（夏期講習、日常の補習・補講）の充実
	2 1	・生徒の授業満足度 80% ・大学入試センター試験・6 教科 13 科目の本校平均点 全国平均点を合計 230 点上回る	・校内研修等による授業の充実 ・現教育課程の検証と新教育課程（3 年間シラバス）の検討 ・学習支援体制の充実と生徒ニーズの把握
	2 2	・生徒の授業満足度 83% ・大学入試センター試験・6 教科 13 科目の本校平均点 全国平均点を合計 240 点上回る	・新 3 年間シラバスの実施と検証 ・生徒ニーズを踏まえた学習支援体制の改善工夫
	2 3	・生徒の授業満足度 83% ・大学入試センター試験・6 教科 13 科目の本校平均点 全国平均点を合計 240 点上回る	・新 3 年間シラバスの改善工夫 ・生徒ニーズを踏まえた学習支援体制の改善工夫
	2 4	・生徒の授業満足度 85% ・大学入試センター試験・6 教科 13 科目の本校平均点 全国平均点を合計 250 点上回る	・改善された 3 年間シラバスの実施 ・生徒ニーズを踏まえた学習支援体制の改善工夫
八王子東	2 0	・国公立大学合格者数（現浪合計） 150 名（内現役 100 名） ・東大・東工大など第 1 G クラス （現浪合計） 40 名	・長期休業中の講習の充実 3 年生夏期講習：60 講座、3,500 名受講 冬期講習：20 講座、1,100 名受講
	2 1	・国公立大学合格者数（現浪合計） 150 名（内現役 100 名） ・東大・東工大など第 1 G クラス （現浪合計） 40 名	・長期休業中の講習の充実 3 年生夏期講習：60 講座、3,700 名受講 冬期講習：20 講座、1,100 名受講
	2 2	・国公立大学合格者数（現浪合計） 150 名（内現役 110 名） ・東大・東工大など第 1 G クラス （現浪合計） 40 名	・長期休業中の講習の充実 3 年生夏期講習：60 講座、3,700 名受講 冬期講習：20 講座、1,200 名受講
	2 3	・国公立大学合格者数（現浪合計） 150 名（内現役 120 名） ・東大・東工大など第 1 G クラス （現浪合計） 50 名	・長期休業中の講習の充実 3 年生夏期講習：60 講座、3,800 名受講 冬期講習：20 講座、1,200 名受講
	2 4	・国公立大学合格者数（現浪合計） 150 名（内現役 120 名）	・長期休業中の講習の充実 3 年生夏期講習：60 講座、3,900 名受講

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・東大・東工大など第1Gクラス (現浪合計) 50名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬期講習：20講座、1,200名受講</li> </ul>
青山	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>(現学年数280名人全体を指標として)</li> <li>・国公立大学合格者 70名以上</li> <li>・東大・国公立医大 5名以上</li> <li>・大学入試センター・5(6)教科7科目型受験者数 110名</li> <li>・難関私立大(早、慶、上智、東京理大、ICU) 現役合格 100名</li> <li>・センター試験の平均得点 全教科で全国平均より15%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東大・国公立医大合格のための校内研究会実施</li> <li>・国公立大学100名以上を目指す教科指導・土曜授業の継続</li> <li>・補習・補講を教科・学年で組織的に実施</li> <li>・校内学力テストの基準策定、年3回以上の外部模試実施</li> <li>・年5回の進路職員会議の実施</li> <li>・年6回の進路研修会の実施</li> <li>・進路ガイダンスの充実</li> <li>・保護者対象の進路研修会</li> <li>・きめ細かな面談の実施</li> <li>・進路講演会の実施</li> <li>・国公立大を諦めさせない指導</li> <li>・外部機関との連携による各種プログラムの実施</li> </ul>
	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>(現学年数280名人全体を指標として)</li> <li>・国公立大学合格者 80名以上</li> <li>・東大・国公立医大 7名</li> <li>・大学入試センター・5(6)教科7科目型受験者数 120名</li> <li>・難関私立大(早、慶、上智、理大、ICU) 現役合格 110名</li> <li>・センター試験の平均得点 全教科で全国平均より15%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補習・補講の充実</li> <li>・校内学力テストの基準策定、年3回以上の外部模試実施</li> <li>・年5回の進路職員会議の実施</li> <li>・年6回の進路研修会の実施</li> <li>・進路ガイダンスの充実</li> <li>・保護者対象の進路研修会</li> <li>・進路講演会と進路懇談会の充実</li> <li>・国公立大を諦めさせない指導</li> <li>・外部機関との連携による各種プログラムの実施</li> </ul>
	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>(現学年数280名人全体を指標として)</li> <li>・国公立大学合格者 90名以上</li> <li>・東大・国公立医大 10名以上</li> <li>・大学入試センター・5(6)教科7科目型受験者数 130名</li> <li>・難関私立大(早、慶、上智、理大、ICU) 現役合格 120名</li> <li>・センター試験の平均得点 全教科で全国平均より15%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補習・補講の充実</li> <li>・年5回の進路職員会議の実施</li> <li>・校内学力テストの基準策定、年3回以上の外部模試実施</li> <li>・年6回の進路研修会の実施</li> <li>・進路ガイダンスの充実</li> <li>・保護者対象の進路研修会</li> <li>・進路講演会の実施</li> <li>・国公立大を諦めさせない指導</li> <li>・外部機関との連携による各種プログラムの実施</li> </ul>
	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>(現学年数280名人全体を指標として)</li> <li>・国公立大学合格者 100名以上</li> <li>・東大・国公立医大 12名以上</li> <li>・大学入試センター・5(6)教科7科目型受験者数 140名</li> <li>・難関私立大(早、慶、上智、理大、ICU) 現役合格 120名</li> <li>・センター試験の平均得点 全教科で全国平均より15%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補習・補講の充実</li> <li>・年5回の進路職員会議の実施</li> <li>・年6回の進路研修会の実施</li> <li>・進路ガイダンスの充実</li> <li>・校内学力テストの基準策定、年3回以上の外部模試実施</li> <li>・保護者対象の進路研修会</li> <li>・進路講演会と進路懇談会の充実</li> <li>・国公立大を諦めさせない指導</li> <li>・外部機関との連携による各種プログラムの実施</li> </ul>

	2 4	<p>(現学年数 280 名入全体を指標として)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学合格者 100 名以上</li> <li>・東大・国公立医大 12 名以上</li> <li>・大学入試センター・5 (6) 教科 7 科目型受験者数 150 名</li> <li>・難関私立大(早、慶、上智、理科大、ICU) 現役合格 120 名</li> <li>・センター試験の平均得点 全教科で全国平均より 15% 以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補習・補講の充実</li> <li>・年 5 回の進路職員会議の実施</li> <li>・年 6 回の進路研修会の実施</li> <li>・進路ガイダンスの充実</li> <li>・校内学力テストの基準策定、年 3 回以上の外部模試実施</li> <li>・保護者対象の進路研修会</li> <li>・進路講演会と進路懇談会の充実</li> <li>・国公立大を諦めさせない指導</li> <li>・外部機関との連携による各種プログラムの実施</li> </ul>
立川	2 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役大学進学率 65% 以上</li> <li>・難関国公立大学現役合格者 20 名以上</li> <li>・国公立大学現役合格者 80 名以上</li> <li>・早稲田・慶応・上智 現役合格者数 70 名以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過熱気味になっている部活動について、学習活動とバランスよく両立させる環境をつくり出す。</li> <li>・進路結果報告会、模試分析会等、教員研修を充実させる。</li> <li>・懸案となっている自習室を設置</li> </ul>
	2 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役大学進学率 67% 以上</li> <li>・難関国公立大学現役合格者 20 名以上</li> <li>・国公立大学現役合格者 90 名以上</li> <li>・早稲田・慶応・上智 現役合格者数 80 名以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・25 年度実施予定の新教育課程を見越して、現行の教育課程改訂作業に着手し、難関大学突破力をつける教育課程を編成</li> <li>・センター試験で得点力が伸びない教科・科目について、改善アクションプログラムを策定し、改善を目指す。</li> <li>・進学系都立校数校による自校問題解説会を共同開催し、より意欲の高い受験生の確保に努める。</li> </ul>
	2 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役大学進学率 68% 以上</li> <li>・難関国公立大学現役合格者 25 名以上</li> <li>・国公立大学現役合格者 90 名以上</li> <li>・早稲田・慶応・上智 現役合格者数 85 名以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改訂教育課程の実施</li> <li>・25 年度実施予定の新教育課程検討開始</li> <li>・東京大学を中心とした難関大学への志望者をふやすため、より高い志を育成する方向へ「総合的な学習の時間」の学習内容を改善</li> </ul>
	2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役大学進学率 69% 以上</li> <li>・難関国公立大学現役合格者 25 名以上</li> <li>・国公立大学現役合格者 95 名以上</li> <li>・早稲田・慶応・上智 現役合格者数 90 名以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末までに 25 年度実施予定の新教育課程完成</li> <li>・数学受験を諦めさせないことに主眼を置いた国公立大学 100 人現役合格プロジェクト開始</li> <li>・難関国公立大学志望者向けに低学年次からの特別講習、勉強合宿の実施</li> </ul>
	2 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役大学進学率 70% 以上</li> <li>・難関国公立大学現役合格者 30 名以上</li> <li>・国公立大学現役合格者 100 名以上</li> <li>・早稲田・慶応・上智 現役合格者数 95 名以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学教育を視野に入れた探究型授業への改善を目指す。</li> <li>・国公立大学、難関私立大学向けに低学年次からの特別講習、勉強合宿の実施</li> </ul>
国立	2 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学合格者(現浪合計) 180 名(うち東大 20 名)</li> <li>(現役は 120 名(うち東大 10 名))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学受験向きの教育課程を着実に実施</li> <li>・3 年生を対象とした特別講習を夏季に実施</li> <li>・東大模試・京大模試など個別大学模試を積極的に受験させ、実践的学力を強化</li> </ul>

	2 1	・国公立大学合格者（現浪合計） 180名（うち東大20名） （現役は120名（うち東大10名））	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次、2年次より難関国公立大学への志向を高める指導を実施</li> <li>部活動・行事と学習の両立を目指し、合理的な時間配分、能率的な予習・復習方法を指導</li> <li>東大など難関大学のオープンキャンパスを積極的に紹介</li> <li>キャリアガイダンスの観点に立って各学年で計画的に進路講演会を実施</li> <li>・センター試験得点結果や模試の得点を踏まえ、弱点教科科目の得点力を高める工夫をする。</li> <li>・進学指導重点校・進学指導特別推進校のネットワークを強め、夏季休業中の補習・講習で、学校間で講師を派遣しあう。</li> </ul>
	2 2	・国公立大学合格者（現浪合計） 180名（うち東大20名） （現役は120名（うち東大10名））	
	2 3	・国公立大学合格者（現浪合計） 200名（うち東大20名） （現役は140名（うち東大10名））	
	2 4	・国公立大学合格者（現浪合計） 200名（うち東大30名） （現役は140名（うち東大20名））	

### 進学指導特別推進校

学校名	年度	数値目標	取組目標
小山台	2 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学現役合格 現役合格35人以上 （現浪合計：40人以上）</li> <li>・難関私立大学 現役合格50人以上 （現浪合計：72人以上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年23回の土曜授業を実施して授業時間の確保に努め、学力の定着と向上を図る。</li> <li>・図書室等での自習体制、1年次：2時間、2年次：3時間、3年次：4時間の家庭学習の確立を推進し、自学自習の学習習慣を身に付けさせる。</li> <li>・年間指導計画（シラバス）の公開と年2回の生徒による授業評価を実施し、全校的な授業改善を図る。</li> <li>・英数等の習熟度別学習や学習指導法などのあり方を各教科で研究させ、教員相互の授業力向上を推進する。</li> <li>・国公立大学受験に対応した教育課程を編成し、実施する。</li> <li>・日々の補習・長期休業中の講習の充実を図るとともに、サテライト講習・小論文講座等の受験に直結した講習・講座を展開する。</li> <li>・冬季セミナー（勉強合宿）に2年生を中心に60人以上参加させ、学習・進学への動機付けを図り、早期の受験体制を確立する。</li> <li>・進路講演会などのキャリア教育を1年次から計画的に実施し、早期に目標大学の設定などの進路意識を高める。</li> <li>・模擬試験を計画的に実施し、個別面談の充実を図る。</li> <li>・卒業生の進路分析・在校生の学力分析などをテーマに校内研修会を実施し、進学対策への教員の共通理解と意識変革を図る。</li> </ul>
	2 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学 現役合格37人以上 （現浪合計45人以上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学受験に対応した教育課程の成果を検証し、それに基づき、教育課程の改善を図る。</li> <li>・進学指導対応の公募教員の増加を図り、全校的な進学指導体制を強化する。</li> <li>・夏・冬・春の長期休業日の講習、平常時の補習を組織化し、塾・予備校に頼らなくても進路実現が可</li> </ul>
	2 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難関私立大学 現役合格52人以上 （現浪合計：75人以上）</li> </ul>	

	2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学 現役合格 40 人以上 (現浪合計 50 人以上)</li> </ul>	<p>能な進学校をつくりあげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校・塾等に対し、進学校としてのアピール・広報活動を積極的に行い、難関大学進学を目指す生徒を広く集める。</li> <li>・理科講義実験などの高大連携事業や進路講演会などのキャリア教育を推進し、生徒の進路意識を高める。</li> </ul>
	2 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難関私立大学 現役合格 54 人以上 (現浪合計 78 人以上)</li> </ul>	
駒場	2 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学 現役合格 28 名</li> <li>・私立難関 9 大学 現役合格 205 名</li> <li>・大学入試センター試験 平均得点 75% 以上 75 名 5 教科 6 科目以上受験者 68 名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2 学年古典の習熟度別授業開始 (平成 20 年度)</li> <li>・サテライト授業・東大生によるサポートティーチャー継続実施</li> <li>・家庭学習時間の確保</li> <li>・模擬試験結果の分析と活用</li> <li>・2 学年の必修選択科目で 5 教科 6 科目以上受験に向けた改訂教育課程実施 (平成 21 年度)</li> <li>・3 学年教育課程の検証</li> <li>・効果的・組織的な補習・講習の実施</li> <li>・国公立大学受験に対応するため、考える力を育てる補習・講習を充実</li> <li>・マークシートを使用したセンター試験対策講習の実施</li> <li>・センター試験後の個別詳細な受験指導の実施</li> <li>・広報活動を通じた本校入学希望者への意識啓発、ミスマッチ防止</li> <li>・難関大学進学を念頭に置いた学習活動と、集中力と規律性を発揮した部活動をバランスよく行う学校の実現</li> </ul>
	2 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学 現役合格 31 名</li> <li>・私立難関 9 大学 現役合格 220 名</li> <li>・大学入試センター試験 平均得点 75% 以上 80 名 5 教科 6 科目以上受験者 73 名</li> </ul>	
	2 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学 現役合格 34 名</li> <li>・私立難関 9 大学 現役合格 230 名</li> </ul>	
	2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学 現役合格 37 名</li> <li>・私立難関 9 大学 現役合格 235 名</li> </ul>	
	2 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学 現役合格 40 名</li> <li>・私立難関 9 大学 現役合格 240 名</li> </ul>	
新宿	2 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学 現役合格 27 名以上 うち難関国立大合格 2 名 (現浪合計 4 名)</li> <li>・早稲田、慶應、上智、東京理科 現役合格 50 名以上</li> <li>・G - M A R C H 現役合格 126 名以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習を中心とした学習習慣の定着 2~3 時間以上 (国公立クラス 1 年次 3 時間、2 年次 3 時間以上)</li> <li>・2 年次模試偏差値逓減率 4.3% 以内、国・数・英は 2 年次終了時までセンター対応力、1 年次模試偏差値逓減率 0% 以内</li> <li>・国公立クラス を中心に国公立志望者を増加させる。</li> <li>・年 4 回の「定点観測・ケース会」をもとにした学年指導充実 (= 1 年次冒頭からの学習習慣定着及び 2 年次早期からの受験モード)</li> <li>・教科主任の任命制に基づく教科会の P D C A 着手。また 3 年次は担任・進路指導部合同の全生徒の個別ケース会を実施し、きめ細かな担任指導を行う。</li> <li>・センター得点率について各教科・科目ごとに数値目標設定。これに基づく授業・講習を実施 (特に古典、数学 B C、英語長文読解、化学、物理を強化)</li> </ul>

			「授業における教師と生徒のコラボレーション」 「論理的に考え、表現する学習」を授業改革のメインテーマとする。
	2 1	・国公立大学 現役合格 31 名以上 うち難関国立大合格 2 名 (現浪合計 4 名) ・早稲田、慶應、上智、東京理科 現役合格 55 名以上 ・ G - M A R C H 現役合格 145 名以上	・平成 20 年度の取り組みを強化し、1 年次模試偏差値を上げる目標、2 年次模試偏差値逓減率 3.9% 以内に設定 ・講習の改編を行い【国公立クラス 難関国立大学をめざすコース】(3 年) 【国公立クラス 向け講習】(2 年) を設定 ・夏期講習で進学指導特別推進校間の合同補習に着手 ・センター前補習、センター後補習(2 次対策)を改編充実させる。
	2 2	・国公立大学 現役合格 31 名以上 うち難関国立大合格 3 名 (現浪合計 4 名) ・早稲田、慶應、上智、東京理科 現役合格 59 名以上 ・ G - M A R C H 現役合格 145 名以上	・平成 21 年度の取組を強化する。
	2 3	・国公立大学 現役合格 33 名以上 うち難関国立大合格 3 名 (現浪合計 5 名) ・早稲田、慶應、上智、東京理科 現役合格 60 名以上 ・ G - M A R C H 現役合格 153 名以上	・平成 22 年度の取組を強化する。
	2 4	・国公立大学 現役合格 35 名以上 うち難関国立大合格 4 名 (現浪合計 5 名) ・早稲田、慶應、上智、東京理科 現役合格 65 名以上 ・ G - M A R C H 現役合格 163 名以上	平成 23 年度の取組を強化する。
町田	2 0	・国公立大学合格 (現浪合計) 50 名 ・早・慶・上智合格 (現浪合計) 30 名	・2 年次まで全員全科目必修の教育課程を着実に実施し、基礎学力をつける。3 年次に難関大学を視野に入れた発展的な学力の充実を図る。 ・センター試験後には、きめ細かな二次試験対策を行う。進路部にイニシアチブを執らせ、組織として体系的・計画的な指導に取り組む。補習・補講の企画・管理、高大連携授業の取りまとめに取り組ませる。 ・進学指導特別推進校指定後の入学生として、国公立大学合格者を増やす取り組みを強める。 学校全体、学年、各ホームルーム等で進学に対する意識づけを一層強く行い、センター試験 7 科目受験者数の増加、得点率向上、自己採点はもとより、受験を国公立後期までやり遂げさせる指導を行う。ま
	2 1	・国公立大学合格 (現浪合計) 50 名 ・早・慶・上智合格 (現浪合計) 35 名	
	2 2	・国公立大学合格 (現浪合計) 55 名 ・早・慶・上智合格 (現浪合計) 40 名	
	2 3	・国公立大学合格 (現浪合計) 55 名 ・早・慶・上智合格 (現浪合計) 40 名	

	2 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学合格 (現浪合計) 60名</li> <li>・早・慶・上智合格 (現浪合計) 40名</li> </ul>	た、生徒の興味・特性に応じて、難関私立大学の特色ある学部への進学指導を強める。
国分寺	2 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役進学率 75%以上</li> <li>・難関国立大学現役合格 5名を含む国公立大学 現役合格 60名以上</li> <li>・難関私立大学 現役合格 80名以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の授業の充実を図る 授業時間を確保する。 基礎学力定着の徹底を目指し、授業の内容を工夫する。</li> <li>到達度の確認と分析を頻繁に行い、教科指導に反映させる。</li> <li>総合的な演習を取り入れ、思考力・応用力の向上を図る。</li> <li>・学年と連携し進路指導に努める。 「進路実現のための3ヵ年計画」に基づいた進路指導を推進する。</li> <li>定期的な実力テストにより、生徒の学力を診断しながら、学力向上に努める。</li> <li>・長期休業中の補習・講習の充実を図る。</li> </ul>
	2 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役進学率 75%以上維持</li> <li>・難関国立大学現役合格 6名を含む国公立大学 現役合格 65名以上</li> <li>・難関私立大学 現役合格 85名以上</li> </ul>	
	2 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役進学率 75%以上維持</li> <li>・難関国立大学現役合格 7名を含む国公立大学 現役合格 70名以上</li> <li>・難関私立大学 現役合格 90名以上</li> </ul>	
	2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役進学率 75%以上維持</li> <li>・難関国立大学現役合格 8名を含む国公立大学 現役合格 75名以上</li> <li>・難関私立大学 現役合格 95名以上</li> </ul>	
	2 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役進学率 75%以上維持</li> <li>・難関国立大学現役合格 10名を含む国公立大学 現役合格 80名以上 (現浪合計100名以上)</li> <li>・難関私立大学 現役合格 100名以上</li> </ul>	
			上記の取組み目標を継承すると共に、必要な事項を見直し、更に効果的な取組みに努める。

## 2 取組むべき課題と支援策の充実

都教育委員会は平成19年度に、進学指導重点校の指定期間の延長及び進学指導特別推進校の新たな指定を行った。指定を受けた進学指導重点校及び進学指導特別推進校(以下、「指定校」という。)は、平成24年度までの指定期間内を見通した中長期の数値目標・取組目標を設定して進学指導に取り組むこととした。

都教育委員会は、毎年度指定校が設定した中長期の数値目標・取組目標の達成に向けた取組状況等の分析及び進行管理を行っている。大学改革に伴う独立行政法人化による入試の多様化が進んでいることから、大学受験情報の収集と各校の取組に対するより詳細な分析が必要となっている。今後は、外部有識者の意見を取り入れながら、指定校が常に課題意識や目的意識を持ち、進路指導の改善・充実を図っていくことができるよう引き続き支援していく必要がある。

### **( 1 ) 組織的な進学指導体制の更なる充実**

指定校は、これまでも生徒一人一人の進路希望に沿った進学を目指すため、長期休業中等の補習・補講の実施、生徒の学力データの管理・分析・組織的なデータ共有などの取組を積極的に行い、3年間を見通した組織的な進学指導体制の整備や計画的な進学指導の充実を図ってきた。また、進路指導体制も学年中心の指導から進路指導部中心の指導に転換されてきたところである。

しかし、今年度の難関大学等への合格実績は昨年度よりも落ち込んでおり、年度により合格状況に大幅な差が見られた。これは、進路指導部中心の進学指導体制整備の転換が十分でないことも原因のひとつであると考えられる。

さらに、難関大学等への受験対策として、学校によっては習熟度別授業を1年生から3年生まで継続した展開を行っていない教科もあり、学力上位層の伸長と下位層の底上げが十分に発揮できない事例もある。習熟度別授業についても、3年間を見通した学習指導計画を組織的に検討した上で、指導方法、指導内容の工夫改善をしながら教育課程を編成していくことが合格実績の向上に不可欠である。

こうした課題を解決し、進路指導体制の更なる充実を図っていくためには、進路指導部や学年だけではなく各教科との協力体制も強化し基礎学力を確実に定着させ、進学に対応した授業の充実を図っていかなければならない。そのために学校は、授業公開や研究授業の積極的な実施や教員相互の授業観察なども取り入れながら、組織的な学力の向上対策に取り組む必要がある。

### **( 2 ) 生徒に展望を持たせる指導の充実**

都立高校においては、進路指導、学校行事等の特別活動、部活動等を含めた積極的な活動を通じ、勤労観・職業観を身に付けるなど、自らの生き方を主体的に決定できる能力や態度を育成できるよう教育活動の充実を図っている。

指定校では、知・徳・体のバランスの取れた人格の形成を図りながら、高い学力を身に付けさせ、個々の生徒の自己実現を図るための進路指導に取り組んでおり、生徒一人一人が大学進学後の進路選択を行うことができるよう、入学時からの計画的な進学指導の充実を図ってきた。

また、生徒の学問に対する意欲の向上を図るため、大学や研究機関などにおける、高校生を対象とした講座やセミナーへの参加や大学による模擬講義の実施は、生徒が大学で学ぶ内容や将来の職業について考える良い契機となっている。こうした高大連携に関する取組は、生徒の視野を広げ、自らの進路希望の実現に向けて挑戦する意欲を継続させている。

この結果、生徒は早期から自己の進路に対する意識が高まり、目的意識を持って主体的な学習への取組が見られるなどの効果を得ている。

しかし、一方で安易に指定校推薦など合格しやすい進路に流れてしまう傾向も一部に見られる。生徒自身が早期に進路を選択し、モチベーションをさらに高める取組を進めることが必要である。そのためには、生徒自身の社会の一員としての自覚を高めるとともに、生徒の職業意識を一層向上させ、自己を磨き高めようとする態度をはぐくむキャリア教育を、系統的かつ組織的に拡充させていくことが必要である。

### **( 3 ) 12校の成果を他の都立学校へ波及させる取組**

これまでも、進学指導重点校7校の成果を各都立学校へ波及させるため、報告書の配付による取組実績の周知や指導部主催の進路指導研究協議会などを実施してきた。しかし、学力の引き上げを主とした進学指導の改善だけではなく、生徒一人一人の進路希望の実現に向けた指導方法や数値目標・取組目標の設定方法など、進路指導全体の充実を図っていくことが、全都立

学校に共通した課題である。

長年にわたって行われていた各種学校行事や部活動の内容及び実施時期の精選の結果、学習・行事・部活動それぞれに集中して取り組むことができる環境を組織的に構築できた。また、学校で実施する夏期講習に関しても、生徒のニーズに合った実施計画を組織的かつ早期に検討及び策定し、早期募集を行うことで充実した講習を提供することができたなどの成功事例もあり、慣例や慣行を大幅に改めることも検討していく必要がある。

今後は、進学指導特別推進校5校を含めた12校の成果として、難関大学等の合格を目指すための学力の引き上げを目的とした指導方法等の成功例や課題に対する取組方法をより一層共有化していくことに加え、学力や課題に対する分析力の向上策や生徒の進路希望実現に向けた進路指導の充実策についても他の都立学校に波及させていかなければならない。

## 第4章 都立学校の進学実績の向上に向けた取組

### 1 進学指導研究協議会の取組

#### (1) 進学指導研究協議会の概要

都教育委員会では、進学指導の一層の充実を図るために、平成10年度から「進学指導研究協議会」を開催している。平成16年度からは、参加校を33校に拡大し、学校の性格により3つのグループに編成し、それぞれ研究協議を行っている。

平成17年度には、校長・副校長に加えて、新たに「進路主幹(主任)」、「教科(国語・数学・英語)主任等」を対象とし、教員の指導力の一層の向上を図っている。

#### (2) 平成19年度における取組

- ・ 両国高校・立川高校において授業研究  
さまざまな授業観察の後、進学指導に関する協議を深めた。
- ・ 管理職及び進路主幹(主任)を対象とした講演及び協議会の開催  
有識者を招き、センター試験の分析と今後の都立高校の進学指導について講演をいただくとともに協議会を実施し、各学校の進学指導の工夫について幅広く情報交換を行った。

#### 《 平成19年度 進学指導研究協議会参加校 》

学校名(グループ)	学校名(グループ)	学校名(グループ)
進学指導重点校を中心に構成	中高一貫教育校に関わる学校で構成	進学重視型単位制高校及び進学指導を重視している学校で構成
日比谷高等学校 戸山高等学校 青山高等学校 西高等学校 小石川高等学校 両国高等学校 八王子東高等学校 立川高等学校 武蔵高等学校 国分寺高等学校 国立高等学校	九段高等学校 都立大学附属高等学校 桜修館中等教育学校 富士高等学校 大泉高等学校 小石川中等教育学校 白鷗高等学校 白鷗高等学校附属中学校 両国高等学校附属中学校 南多摩高等学校 北多摩高等学校 武蔵高等学校 三鷹高等学校	三田高等学校 小山台高等学校 駒場高等学校 新宿高等学校 国際高等学校 豊多摩高等学校 竹早高等学校 北園高等学校 墨田川高等学校 城東高等学校 小松川高等学校 町田高等学校 武蔵野北高等学校 小金井北高等学校

の学校については、中高一貫教育校、中等教育学校として全学年が揃った時点で、グループだけに所属する。

## 2 進学対策のための教科研修

教職員研修センターでは、平成13年度から、都立高等学校の大学進学指導の向上に資するため、「進学対策のための教科研修」を実施している。

これは、進学対策における指導方法等の理解を深め、全受講者による模擬授業や受講者代表による授業研究を通して授業改善を図るとともに、大学入試問題の分析や作問を通して進学対策の指導技術等を高めることをねらいとしている。

平成19年度は、現代文、地理、数学、生物、英語の5科目を対象に、研修を実施した。全6回の研修のうち、第1回を除く5回分については、一人一人の課題に対応するため、各教科の定員を10名としたところ、教科によってはおよそ2倍の応募があり、関心の高さを物語っていた。また、受講者からは、具体的な指導方法などを学べて即戦力のある研修となった、などの声を得ている。

平成20年度は、科目を変え、古典、日本史、数学、物理、英語の5科目で実施している。

## 3 その他の取組

	取 組 の 内 容
入学者選抜学力検査問題の自校作成	<p>進学指導重点校及び進学指導特別推進校を含む特定の学校で、国語、数学、英語の3教科について、入学者選抜学力検査問題の自校作成を制度化している。</p> <p>この自校作成の制度により、「本校の期待する生徒の姿」にふさわしい生徒の選抜を行うため、思考力・判断力・表現力をみる問題の充実を図っている。また、問題の作成を通して、中学校の学習実態の認識を深めている。さらには、採点結果によって入学した生徒の学力の分析を行ったり、入学後の指導計画の作成に生かしている。</p> <p>【自校作成開始年度】 (特): 進学指導特別推進校            平成13年度 日比谷高校            平成14年度 西高校            平成15年度 戸山高校、八王子東高校、新宿高校(特)、国分寺高校(特)            平成16年度 青山高校、立川高校、国立高校</p>
公募による教員の配置	<p>教科指導力の高い教員を中心に、生徒一人一人の学力の向上を図り、生徒や保護者が期待する進学希望を実現させるとともに、組織的で計画的な進学指導を推進するために、進学指導重点校では平成14年度から、進学指導特別推進校においては平成20年度から、進学指導に意欲と実績のある教員を公募により配置している。</p> <p>公募しているのは、国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語の6教科であり、書類選考の上、面接を実施し、専門的知識、能力、意欲等を勘案して、採用者を決定している。</p>
他県公立進学校訪問	<p>平成16年度から、都立学校の大学進学対策の充実を図るため、他県の公立進学校を訪問し、授業参観及び研究協議を行っている。進学指導重点校や特別推進校の教員をはじめとして、進学実績の向上を目指している学校の教員や、将来、進学指導重点校で指導をしたいという意欲をもった教員が30数名参加している。</p> <p>平成16年度：栃木県立宇都宮高等学校      平成17年度：群馬県立前橋高等学校            平成18年度：埼玉県立浦和高等学校      平成19年度：埼玉県立大宮高等学校</p>

## お わ り に

進学指導重点校・進学指導特別推進校では、生徒の進学希望を踏まえた指導内容及び指導方法の工夫・改善や、生徒の進路希望実現のための組織的で計画的な進路指導体制の確立を図るとともに、それぞれの学校の特色を生かした取組を行ってきました。

進学指導重点校では、平成19年度に指定期間を延長したことで、今までの成果をより確実な実績へとつなげていくため、各校の特色を生かした進路指導を実施してきました。

日比谷高校は、平成19年度から文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定され、理数教育を中心とした生徒の学力向上・知的好奇心の向上を目指した指導を行っています。

戸山高校は、大学・社会で伸びる人材の育成を目指し、単なる受験指導ではなく、生徒の適性と能力を尊重した進路指導を行っています。

西高校は、学力向上のためだけでなく、生徒の自主的な学習を支援することを大切に、生徒自身が自分に合った勉強法を見つけ出し、自ら学び取っていく力を育てる指導を行っています。

八王子東高校は、自分の進路について関心を持たせ、自らの進路は自ら切り開く態度を養うことに重点を置き、進路指導をとおして生徒の自己実現を支援する指導を行っています。

青山高校は、進路職員会議を行うなど、生徒の学力分析をもとにした進学指導の充実を図り、最後まであきらめずに第一志望を目指すことを教職員一丸となって支援しています。

立川高校は、授業を中心に基礎・基本を固め、学習習慣を確立させた上で、高大連携や大学出張講義の実施など、進路情報を抱負に提供することで、進学実績の向上を目指しています。

国立高校は、教職員による進路指導だけでなく、定期考査前のサポートティーチャーや、進路アドバイスの会など、卒業生等の支援による進路指導体制を整えています。

また、進学指導特別推進校では、進学指導重点校に次ぐ学校として、指定初年度から前年度を上回る進学実績をあげるなど、進学指導体制の確立と進学実績の更なる向上を目指して取り組んでいます。

進学指導重点校・進学指導特別推進校としての成果は、大学進学実績の上昇だけを指しているのではありません。進路指導を充実させることで、自分の生き方や将来の進路について考えさせるとともに、進路希望を実現させるための力を身に付けさせることに他なりません。

これらの取組について、すべての都立学校で参考にさせていただくとともに、都民の皆様には、都立学校の進学指導の改善に向けた努力について御理解いただきたいと願っています。

東京都教育委員会は、今後とも教育諸条件の整備を図りながら、信頼される学校づくりを一層推進していきます。